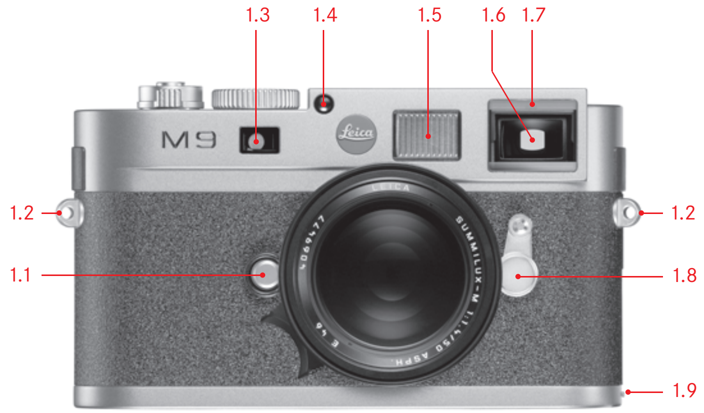
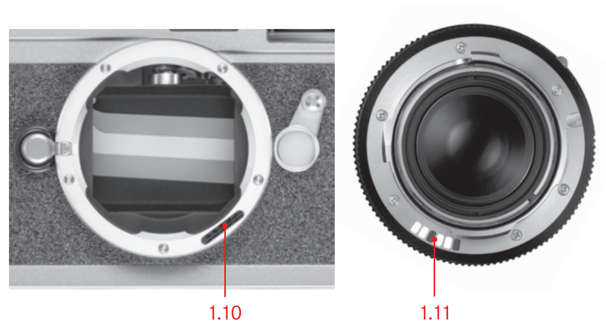
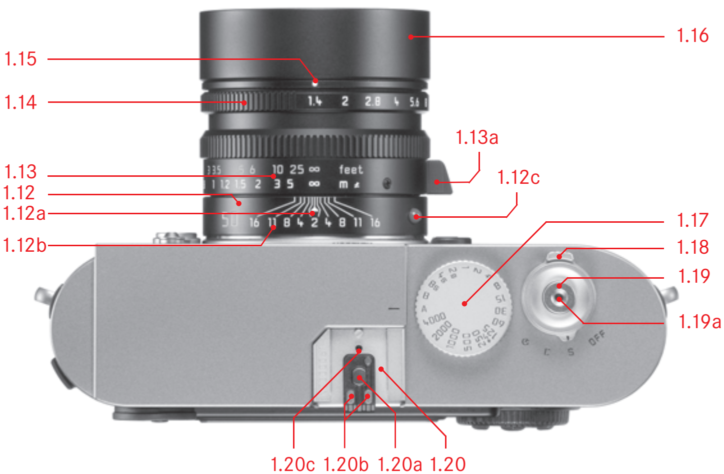
LEICA M9

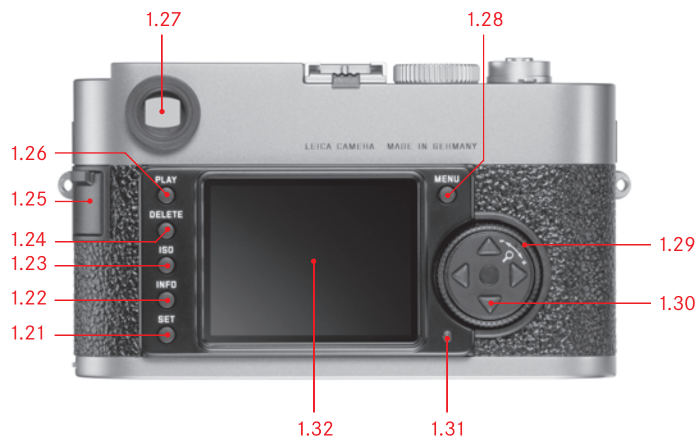
使用説明書

各部の名称については表紙と背表紙の内側の写真をご参照ください。


1.3
1.4
1.5
1.6
1.7
1.2
1.2
1.1
1.8
1.9


1.10
1.11


1.16
1.15
1.14
1.13a
1.13
1.12c
1.12
1.12a
1.17
1.12b
1.18
1.19
1.19a
1.20c
1.20b
1.20a
1.20


1.27
1.28
1.26
1.25
1.24
1.23
1.22
1.21
1.29
1.30
1.32
1.31
PLAY
DELETE
ISO
INFO
SET
MENU

LEICA M9

使用説明書


M9
Leica
1:1.4/50 ASPH.
E 46
LEICA
3992347

はじめに

お客様へ

このたびはライカM9をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ライカM9は、独特の機能・性能を備えたデジタルレンジファインダーカメラです。
ライカM9を正しく十分にご活用いただくために、ご使用前にこの使用説明書をよくお読みください。
ライカM9の機能と性能をご活用のうえ、末永くご愛用ください。

目次

ご注意

- 指定以外のアクセサリーは使用しないでください。故障、感電、ショートの原因となります。
- ライカM9を雨や湿気にさらさないでください。
- 本体（カバー）の部品を取り外さないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。

著作権について

- あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- ライカM9に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- SD ロゴは登録商標です。
- 本書に記載されているその他の名称、企業名、製品名は、当該各社の商標または登録商標です。

電気・電子機器の廃棄について

（分別廃棄を実施するEU諸国およびその他のヨーロッパ諸国のみ）

この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。回収は無料となっています。
電池や充電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電池を取り外してから回収場所にお持ちいただくか、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体、お近くの廃棄物回収業者、またはご購入店にお問い合わせください。

付属品

ライカM9をご使用になる前に、下記の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

A. 充電式リチウムイオンバッテリー

B. バッテリーチャージャー

C. USB接続ケーブル

D. キャリングストラップ

各部の名称

各部については、表紙と裏表紙の内側の写真を参照してください。

正面

1.1 レンズ着脱ボタン
1.2 キャリングストラップ取り付け部
1.3 距離計窓
1.4 輝度センサー[1]
1.5 ブライトフレーム採光窓
1.6 ファインダー窓：きわめて明るい状況でもファインダー表示を見やすくする反射板付き
1.7 セルフタイマーLED
1.8 フレームセレクター
1.9 底蓋固定ピン

レンズマウント（カメラ正面）/ボディマウント（レンズ背面）

1.10 6ビットコード検知センサー
1.11 6ビットコード

[1] ファインダーアタッチメント付きMレンズを装着した場合は、輝度センサーが遮られます。レンズと輝度センサーについては「画面の表示/ファインダー/上部LCD」（10ページ）の注意[1]を、使用できるレンズについては「Mレンズ」（22ページ）をご覧ください。

上面

1.12 固定リング
- a. フォーカシング指標
- b. 被写界深度目盛り
- c. レンズ着脱赤指標

1.13 フォーカスリング
- a. 指当て

1.14 絞りリング
1.15 絞り指標
1.16 レンズフード
1.17 シャッタースピードダイヤル
- **A** 絞り優先AEモード：シャッタースピードが自動的に設定されます。

1.18 メインスイッチ
- **OFF**（ライカM9の電源を切ります。）
- **S**（シングル撮影するときに選びます。）
- **C**（連続撮影するときに選びます。）
- **⏲**（セルフタイマーを使うときに選びます。）

1.19 シャッターレリーズボタン
- a. ケーブルレリーズ用ねじ穴

1.20 ホットシュー
- a. 中央（シンクロ）接点
- b. 制御接点
- c. ロックピン用の穴

背面

1.21 **SET**ボタン：撮影情報メニューの表示、メインメニュー/撮影情報メニューのサブメニューの表示、サブメニューで選択した設定内容の実行を行います。

1.22 **INFO**ボタン：各種設定/撮影時のデータ/画像再生時に撮影情報を表示します。

1.23 **ISO**ボタン：感度設定の呼び出しのときに押します。

1.24 **DELETE**ボタン：画像消去機能を使うときに押します。

1.25 USB端子カバー

1.26 **PLAY**ボタン：再生モード（PLAYモード）への切り換えと画像の全体表示への切り換えを行います。

1.27 ファインダー接眼部

1.28 **MENU**ボタン：メインメニューを表示/終了します。

1.29 メイン設定リング：メインメニュー/撮影情報メニュー/サブメニューの設定内容の選択、選択した設定内容での数値の選択、露出補正値の設定、表示画像の送り/戻し、画像の拡大/縮小を行います。

1.30 十字キー：メインメニュー/撮影情報メニュー/サブメニューの設定内容の選択、選択した設定内容での数値の選択、表示画像の送り/戻しを行います。

1.31 LED：撮影モードへの切り換え後と画像データ記録時に点灯します。

1.32 液晶モニター

USB端子カバーを開けた状態

1.33 mini USB端子（5ピン/パソコン接続用）

底面

（底蓋を取り付けた状態）

1.34 三脚用ねじ穴A $^{1}/_{4}$（$^{1}/_{4}$インチ、DIN4503に準拠）

1.35 底蓋

1.36 底蓋開閉つまみ

（底蓋を取り外した状態）

1.37 バッテリースロット

1.38 バッテリーロックレバー

1.39 メモリーカードスロット

バッテリーチャージャー

1.40 緑色のLED（**CHARGE**）：充電中に点滅します。

1.41 黄色のLED（**80%**）：バッテリー容量の80%まで充電が完了したときに点灯します。

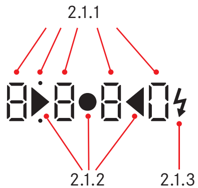
1.42 チャージ部
a. 接点

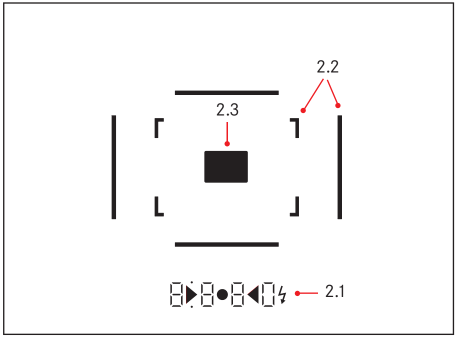
1.43 カーアダプター用ソケット

1.44 ソケット（2ピン）

1.45 交換式電源コード

画面の表示





2. ファインダー

2.1 **LED**：周囲の光量に応じて明るさが自動調整されます[1]。

2.1.1. 上下にドット（小さい点）がある4桁7セグメントのデジタル表示

デジタル表示
- 絞り優先AEモード時に、自動設定されたシャッタースピードを表示します。
- シャッタースピードが2秒より遅い場合にカウントダウンを表示します。
- 絞り優先AEモード時に、露出計の測光範囲外にある場合や、自動設定されたシャッタースピードがライカM9で設定できる数値ではない場合に、警告として点滅します。
- 露出補正時に、補正値を数秒間表示します。
- バッファメモリーが（一時的に）いっぱいである場合に点滅します。
- SDメモリーカードが入っていないことを表示します（**Sd**）。
- SDメモリーカードがいっぱいであることを表示します（**Full**）。

上部のドットの表示
- AEロック使用時に点灯します。

下部のドットの表示
- 露出補正時に点滅します。

[1] ファインダーアタッチメント付きMレンズを装着した場合は、周囲の光量を測定する輝度センサー（1.4）が遮られるため、ファインダーの明るさは自動調整されず常に一定になります。

2.1.2 三角形（×2）と円（×1）のLED
- スナップショットモード時に、露出状況を表示します。

  円が点灯：適正露出であることを示します。

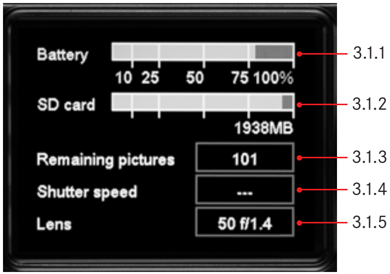
  円が点灯、右の三角形が点滅：露出オーバーのおそれがあることを示します。

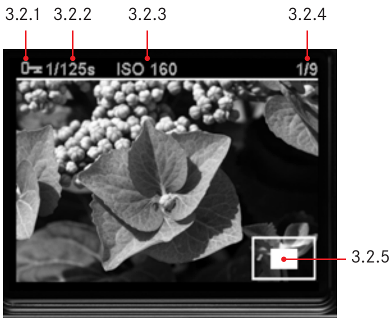
  円が点灯、左の三角形が点滅：カメラブレや露出アンダーのおそれがあることを示します。
- マニュアルモード時に、露出状況を表示します。
- 露出計の測光範囲を下回り、シャッタースピードがライカM9で設定できる下限を下回る場合に、警告として点滅します。

2.1.3 フラッシュマーク
- フラッシュが発光可能状態のときに点灯します。
- 撮影の前後にフラッシュが発光可能かどうかを表示します。

2.2 ブライトフレーム（**50mmと75mmの例**）

2.3 フォーカシング測距枠





3. 液晶モニター

3.1 撮影時
（INFO-ボタン、1.22を押してください）

3.1.1 バッテリーの容量

3.1.2 メモリ容量の残量（MB）

3.1.3 撮影数の残量

3.1.4 設定されたシャッタースピード

3.1.5 レンズ

3.2 通常の再生時
（画像は全体表示）

3.2.1 画像プロテクトマーク（設定時のみ）

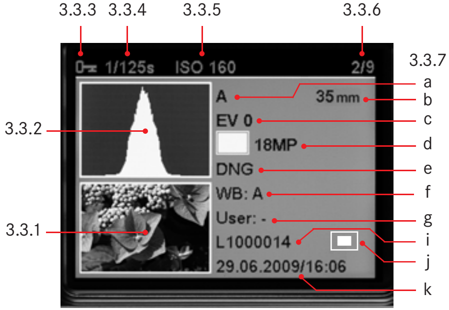
3.2.2 シャッタースピード（拡大表示のときはなし）

3.2.3 ISO感度（拡大表示のときはなし）

3.2.4 画像番号/総画像数（拡大表示のときはなし）

3.2.5 拡大範囲/表示位置
（長方形による表示、画像拡大表示時のみ）

3.2.6 選択されている画像（4コマ表示および9コマ表示のみ）



3.3 撮影情報を表示しての再生時
（情報は**INFO**ボタンで表示、1.2.2；画像は縮小表示）

3.3.1 画像（クリップ機能も使用可能[1]）

3.3.2. ヒストグラム[1]

a. 輝度（明るさ）

b. RGB（色別に表示）

3.3.3 プロテクトマーク（設定時のみ）

3.3.4 シャッタースピード

3.3.5 ISO感度

3.3.6 画像番号/総画像数

3.3.7 撮影情報

a. 露出モード

b. 焦点距離[2]

c. 露出補正値

d. 解像度

e. 圧縮率/記録形式

f. ホワイトバランス

g. プロファイル番号

i. ファイル番号

j. 拡大範囲/表示位置（画像拡大表示時のみ）

k. 日付/時間

[1] 詳しくは「ヒストグラム」（30ページ）をご覧ください。
[2] 6ビットコード付きレンズまたは6ビットコード付きに改造したレンズ（22ページ）を装着した場合のみ表示されます。

メニュー一覧

4.1 メインメニュー（MENUボタンを押すことで表示、1.28）

	項目	機能	スナップショットプロファイルでの設定内容（固定）
4.1.1	**レンズ検出**	–	**オート**
4.1.2	**ユーザー設定**	プロファイルを登録します。	使用できません。
4.1.3	**シャッター設定**	静音チャージ／分離チャージ	**標準**
4.1.4	**セルフタイマー**	セルフタイマーの設定時間を選びます。	**12s**
4.1.5	**ISOオート設定**	–	**ISOオート/レンズ依存/最大でISO 800**
4.1.6	**シャープネス**	画像のシャープネスを調整します。	**標準**
4.1.7	**彩度**	画像の色の彩度を調整します。ビンテージ白黒	使用できます。
4.1.8	**コントラスト**	画像のコントラストを調整します。	**標準**
4.1.9	**ブラケット設定**	枚数/撮影順序/露出ステップ	使用できません（＝**OFF**）。
4.1.10	**露出補正設定**	設定方法を変更できます。	使用できません。
4.1.11	**液晶明るさ**	–	**標準**
4.1.12	**ヒストグラム**	輝度分布やカラー分布をグラフで表示します。	**標準**
4.1.13	**フォルダー操作**	フォルダー名称変更/新規作成	使用できません。
4.1.14	**オートレビュー**	撮影直後に画像を自動表示します。	**3秒**（ヒストグラム切）
4.1.15	**オートパワーオフ**	電源を自動的に切ります。	**2分**
4.1.16	**フラッシュ同調**	フラッシュ発光のタイミングを設定します。	**先幕**
4.1.17	**スローシンクロ**	絞り優先AEモードでのフラッシュ撮影時に自動設定されるシャッタースピードの下限を設定します。	**レンズ依存**
4.1.18	**色空間**	色空間を設定します。	**sRGB**
4.1.19	**DNG設定**	RAWデータを圧縮します。	使用できません。
4.1.20	**設定リセット**	すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。	使用できません。
4.1.21	**センサー検査**	撮像素子をクリーニングするためにシャッターを開放状態にします。	使用できません。
4.1.22	**日付**	日付を設定します。	使用できます。
4.1.23	**時刻**	時間を設定します。	使用できます。
4.1.24	**電子音**	ボタン操作や設定時の確認音を設定します。	**切**
4.1.25	**Language**	メニュー言語を設定します。	使用できます。
4.1.26	**USB接続**	カメラを外付けディスクとして、あるいはPTPプロトコルに従って認識します。	**大容量記憶装置**
4.1.27	**フォーマット**	メモリーカードを初期化します。	使用できます。
4.1.28	**ファームウェア**	ファームウェアのバージョンを表示します。	使用できません。

メモ

スナップショットプロファイルでは、メインメニューの項目で、右の表中にグレーでハイライト表示されている項目のみ設定できます。その他の項目はメインメニュー画面には表示されず、使用できないか、特定の設定内容に固定されます。撮影情報メニューを表示することはできません。

4.2 撮影情報メニュー (**SET**ボタンで表示、1.21)

	項目	機能	スナップショットプロファイルでの設定内容（固定）
4.2.1	**ホワイトバランス**	ホワイトバランスを設定します。	オート
4.2.2	**圧縮**	圧縮率/記録形式を設定します。	JPG fine
4.2.3	**解像度**	解像度を設定します。	18 MP
4.2.4	**露出補正**	露出補正を行います。	使用できません。
4.2.5	**ブラケティング**	入/切	使用できません。
4.2.6	**プロファイル設定**	登録したプロファイル/スナップショットプロファイルを呼び出します。	スナップショット

クイック操作ガイド

次のアイテムを用意してください。
- カメラ
- バッテリー（A）
- メモリーカード（パッケージには含まれていません）
- バッテリーチャージャー（B）

セットアップ

1. バッテリー（A）をバッテリーチャージャーにセットしてください（18ページ）。
2. バッテリーチャージャー（B）を電源につなぎ、バッテリーを充電してください（18ページ）。
3. メインスイッチ（1.18）を**OFF**にしてください。
4. 充電されたバッテリーをカメラにセットしてください（20ページ）。
5. メモリーカードをセットしてください（21ページ）。
6. メインスイッチ（1.18）を**S**にしてください。
7. ご希望のメニュー言語を選択してください（34ページ）。
8. メモリーカードを初期化してください（69ページ）。

ご注意

- 初期化が必要になるのはご購入直後の初期化されていないメモリーカードです。
- その場合、メモリーカードのすべてのデータが消去されます。

9. 日付と時間を設定してください（34ページ）。

撮影する

10. レンズをカメラにセットしてください（23ページ）。
11. シャッタースピードダイヤル（1.17）を**A**に設定して、シャッタースピードを絞り優先AEにします（28ページ）。
12. ファインダーをのぞきレンズの距離リングでピントを合わせます（46ページ）。
13. シャッターレリーズボタン（1.19）を最初のポイントまで半押ししてカメラの露出計のスイッチを入れてください。
14. 撮影条件に応じて、レンズの絞りリングを使って露出を補正してください（48ページ）。
15. 撮影するにはシャッターレリーズボタンを最後まで押します。

撮影した画像を見る

撮影直後の画像を（撮影モードの中で）一時的に表示するには次のようにしてください。
ライカM9は、ご購入時に既にこの機能、つまり自動再生に設定されています。メインメニューでは、この項目（4.1.14）の中で様々な機能を選択することができます（25ページ）。

時間の制限なく画像を表示するには次のようにしてください。
1. PLAYボタンを押して再生モードに設定します（62ページ）。
2. 他の撮影画像を見るには、左右の十字キー（1.30）を押します。

メモ
連続撮影時（27ページ）は、連続撮影された画像の中の最後の画像、もしくはカードに保存された連続画像の最後の画像が表示されます。この時点では、バッファメモリーの連続撮影画像の中には、まだカードに上書きされていないものがあります。

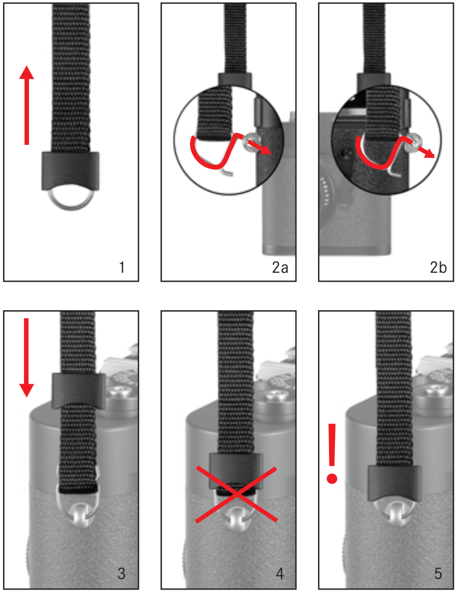
液晶モニター画面での撮影画像の拡大
表示された画像を拡大して見たいときには、メイン設定リング（1.29）を右（時計方向）に回します（63ページ）。

画像消去
消去ボタン（DELETEボタン、1.24）を押して、液晶モニター（1.32）の表示に従ってください（65ページ）。

操作ガイド

準備

キャリングストラップの取り付けかた



バッテリーを充電する

ライカM9をお使いになるためには、充電式リチウムイオンバッテリー（A）が必要です。

注意

- 本書またはライカで指定したバッテリー以外は使用しないでください。
- 付属のバッテリーをライカM9以外には使用しないでください。また、本書の説明に従って正しく充電してください。
- 指定以外のバッテリーを使用したり、説明に従わずにバッテリーを使用したりすると、破裂するおそれがあります。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。
- 付属のバッテリーチャージャーまたはM8/M8.2用のバッテリーチャージャー（コード番号14463）以外は使用しないでください。
- 指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となり、重傷や時には死亡のおそれがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーでは、専用バッテリー以外は充電しないでください。また、他の用途には使用しないでください。
- 公共施設などで、使用許可のないコンセントではバッテリーを充電しないでください。
- バッテリーチャージャーおよびバッテリーを分解しないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにご依頼ください。

メモ

- バッテリーはお買い上げ時には充電されていませんので、充電してからライカM9でお使いください。
- バッテリーは0～35℃の場所で充電してください。これ以外の温度では、電源が入っても切れてしまうか、電源がまったく入りません。
- リチウムイオンバッテリーは、残量にかかわらずいつでも継ぎ足し充電ができます。残量が多い状態で充電すれば、短時間で充電が完了します。
- 充電中にバッテリーが温かくなりますが、異常ではありません。
- 充電開始後にバッテリーチャージャーの2つのLED（1.40、1.41）が速く点滅した場合（1秒に2回以上）は、充電異常です。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いてからバッテリーを取り外し、周囲の温度が本書に記載された範囲内であることを確認してから、再び充電してください。それでも状態が変わらない場合は、お買い上げの販売店またはライカカスタマーサービスまでお問い合わせください。

- 新しいバッテリーは、フル充電してから完全放電させる（ライカM9に入れて使い切る）というサイクルを最初に2、3回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後もこのサイクルを25回に1度ほど行うことをおすすめします。また、バッテリー寿命を最大限に引き延ばすために、極端な温度条件のもと（夏場や冬場の車内など）に長時間放置しないでください。
- バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
- 不要になったバッテリーは、お住まいの自治体の条例や規則に従って廃棄してください（6ページ）。
- ライカM9はバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付などの設定を最大3ヶ月間保存するためのもので、バッテリーを電源としています。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。充電を始めてから約60時間後にフル充電になります。充電中はライカM9の電源を入れる必要はありません。

1. 交換式電源アダプターのコネクター（1.45）をバッテリーチャージャーのソケット（1.44）に差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
2. バッテリーの接点を下に向け、表に付いている矢印の方向に奥までしっかりとスライドさせるようにして、バッテリーをチャージ部（1.42）に取り付けます。バッテリーの向きが違うと取り付けることができませんので、向きを確認して取り付けてください。



- バッテリーが正しくセットされると、緑色のLED（**CHARGE**）（1.40）が点滅し、充電中になったことを示します。容量の80%まで充電が完了すると、黄色のLED（**80%**）（1.41）が点灯します。フル充電が完了すると（約3時間半後）、緑色のLEDが点灯に変わります。

メモ
容量の**80%**までの充電に要する時間は、約2時間です。容量の**80%**まで充電すると、約280枚の撮影が可能になります。フル充電では約350枚の撮影が可能です。したがって、比較的短時間で十分な枚数が撮影できる程度まで充電できます。

3. 充電が終わったら、バッテリーチャージャーをコンセントから抜きます。過充電されることはありませんが、コンセントから抜いておくことをおすすめします。
4. バッテリーを持ち上げるか手前にスライドさせるかして、バッテリーチャージャーから取り出します。チャージ部には、取り出しやすいようにくぼみが付いています。

バッテリーを入れる/取り出す

1. メインスイッチ（1.19）を「OFF」にします。



2. 底蓋（1.35）を次の手順で取り外します。
   a. 底蓋の開閉つまみ（1.37）を引き出します。
   b. 開閉つまみを左に止まるまで回します。
   c. 底蓋を持ち上げて外します。





3. 接触する電気接点の位置を確認しながら、バッテリーをバッテリースロット（1.37）に入れます。バネ式の白いロックレバー（1.38）が被さり正しくセットされるまでバッテリーを押し込みます。
4. 底蓋を次の手順で本体に戻します。
   a. ライカM9の端にある底蓋固定ピン（1.9）に底蓋をセットします。
   b. 底蓋を閉じます。
   c. 開閉つまみを右に止まるまで回します。
   d. 開閉つまみを元の状態に戻します。

バッテリーを取り出すときは、上の手順を逆に行ってください。バネ式の白いロックレバーをスライドさせると、バッテリーを取り出すことができます。

メモ

バッテリーを取り出す前には、必ずライカM9の電源を切ってください。

1回のフル充電で約350枚の画像が4秒間再生できます（CIPA規格による）。

バッテリー残量表示（3.11/2.1.1）

バッテリー残量は、撮影モードではINFOボタン（1.22）を押すと液晶モニター（1.32）に表示されます。 容量が10%以下になった場合、バッテリーを交換または充電してください。

メモ

- ライカM9を長期間使用しない場合は、メインスイッチで電源を切り、バッテリーを取り出してください。
- 約3ヶ月間使用しないでいると、バックアップ電池が放電してしまいます。バックアップ電池が放電した場合は、すべての情報を設定し直してください。バックアップ電池についての詳細は、「バッテリーを充電する」の「メモ」の最後の項目（18ページ）をご覧ください。

メモリーカードを入れる/取り出す

ライカM9では、SDメモリーカードとSDHCメモリーカード（大容量）が使用できます（本書では「メモリーカード」と記載しています）。

これらのメモリーカードは、軽量・コンパクトな交換式の外部記録メディアで、特にSDHCタイプは超高速で読み込み/書き込みを行うことができます。また、書き込み防止スイッチを装備しているので、誤って画像を書き込んだり消してしまったりする心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側にあり、下側の「LOCK」の方向にスライドさせれば書き込み防止機能がオンになります。

さまざまなメーカーからさまざまな容量・転送速度のタイプが用意されています。

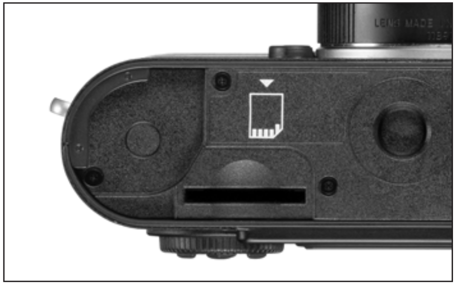
メモ

メモリーカードの端子部を手で触らないでください。

1. メインスイッチ（1.18）を「**OFF**」にします。



2. 底蓋（1.35）を次の手順で取り外します。
   a. 底蓋の開閉つまみ（1.36）を引き出します。
   b. 開閉つまみを左に止まるまで回します。
   c. 底蓋を持ち上げて外します。



3. 端子部を奥に、角が斜めになっている側を下に向け、メモリーカードをメモリーカードスロット（1.42）に入れます。奥まで入れるとバネの感触がありますが、そのまま「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
4. 底蓋を次の手順で本体に戻します。
   a. ライカM9の端にある底蓋固定ピン（1.9）に底蓋をセットします。
   b. 底蓋を閉じます。
   c. 開閉つまみを右に止まるまで回します。
   d. 開閉つまみを元の状態に戻します。

メモリーカードを取り出すときは、ライカM9の電源を切り、上の手順を逆に行ってください。底部に表示されているとおり、メモリーカードは軽く押し込むと取り出すことができます。

メモ

- ライカM9に対応するメモリーカードのラインナップは非常に多く、当社ではどの製品がライカM9に対応し、ライカM9の要求する品質を備えているかを把握し切れません。そのため大手メーカー、例えば「SanDisk」ないし「Lexar」の「Extreme III」や「Professional」のカードをご利用されることをお勧めします。
- その他のカードをご利用になられても、カメラ本体またはカードに損傷が起こるとは考えにくいのですが、「ノン・ブランド」のカードを中心として、SDおよびSDHCの基準に合致していないものもあるため、当社はその機能を保証することができません。
- メモリーカードがうまく入らない場合は、メモリーカードの向きを確認してください。
- 底蓋を外したときやメモリーカードを取り出したときは、液晶モニターの画面にそれぞれ次のメッセージが表示されます。
  - **注意：底蓋が外れています**
  - **注意：SDカードがありません**

- 液晶モニター（1.33）の右下の赤いLED（1.32）が点滅している場合は、画像記録中および/またはデータ保存中ですので、底蓋を取り外したりメモリーカードを取り出したりしないでください。保存されていないデータや保存済みのデータが消失することがあります。
- 電磁波、静電気、ライカM9やメモリーカードの故障により、メモリーカードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み（70ページ）、バックアップをとることをおすすめします。
- 同じ理由から、メモリーカードを帯電防止性のケースなどで保管することをおすすめします。

Mレンズ

ライカM9では、ほぼすべてのMレンズを装着して使用できます。ここでは、使用できない、または機能が制限される数少ないレンズについて説明します。

Mレンズは、レンズ検出用の6ビットコードがマウント部に付いている現行のMレンズと、6ビットコード付きではない旧型のMレンズがありますが、ライカM9ではどちらでも装着して使用できます。6ビットコード付きではないMレンズを装着しても、ライカM9はほとんどの状況で高い描写性能を発揮します。

このようなケースで最適な画質を得るには、そのレンズの機種を手動で入力することをお勧めします（「レンズ検出」、36ページ）。

重要

- **使用できないレンズ**
  - ホロゴンf8/15mm
  - ズミクロンf2/50mm NF（近接撮影用レンズ）
  - エルマーf4/90mm（沈胴式、生産期間1954～1968年）
  - ズミルックスM f1.4/35mm（非球面レンズ不採用、生産期間1961～1995年、カナダ製）の一部は、レンズのフォーカスリングが無限遠まで行かない場合があります。このレンズは、ライカカスタマーサービスにて、ライカM9で使用できるように改造できます。

- **使用できるが、ライカM9またはレンズを破損させるおそれがあるレンズ**

  沈胴式レンズは、伸張させた状態でのみ使用できます。絶対に沈胴しないでください。ただし、現行のマクロ・エルマーM f4/90mmは、沈胴させても問題なく使用できます。

- **使用できるが、制限があるレンズ**

  ライカM9のファインダーは高い精度を備えていますが、絞り開放では被写界深度がきわめて浅いことから、135mmレンズによるピント合わせは保証されていません。したがって絞りは2段以上絞ることをお勧めします。

- **使用できるが、露出計が正確に機能しないレンズ**
  - スーパー・アンギュロンM f4/21mm
  - スーパー・アンギュロンM f3.4/21mm
  - エルマリートM f2.8/28mm（シリアルナンバーが2 314 921以前のもの）

メモ

旧型Mレンズの多くは、ライカカスタマーサービスにて、6ビットコード付きに改造できます。改造できるレンズの種類については、ライカカスタマーサービスまでお問い合わせください。

レンズを取り付ける



1. 固定リング（1.12）に指をそえてレンズを持ちます。
2. レンズ着脱用の赤い指標（1.12c）とライカM9のレンズ着脱ボタン（1.1）の位置を合わせます。
3. レンズをまっすぐはめ込みます。
4. 「カチッ」と音がするまでレンズを右に回します。

レンズを取り外す

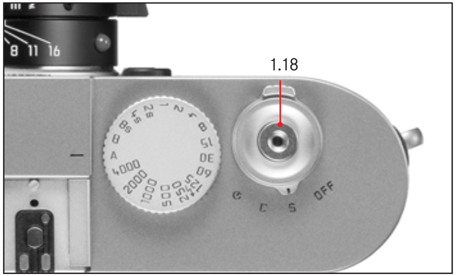


1. 固定リング（1.12）に指をそえてレンズを持ちます。
2. レンズ着脱ボタン（1.1）を押します。
3. 赤い指標（1.12c）とレンズ着脱ボタンの位置が合うまでレンズを左に回します。
4. レンズをまっすぐ取り外します。

メモ
- ライカM9の内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、ライカM9には常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- カメラまたはレンズのキャップ類は、ズボンのポケットにしまわないでください。そこでほこりがついたままカメラに装着した場合、カメラの内部にほこりが入ってしまうことがあります。

大切な設定・機能

カメラの電源を入れる/切る・メインスイッチ



電源のオン/オフはメインスイッチ（1.18）で行います。メインスイッチは機能ごとに次の4つの位置にセットできる回転レバー式で、シャッターレリーズボタン（1.19）の下部にあります。

a. **OFF：電源オフ**
ライカM9の電源を切ります。

b. **S：シングル撮影**
シャッターレリーズボタンを押して1枚だけ撮影されます。シャッターレリーズボタンを押し続けても1枚しか撮影できません。
メインメニュー（14、31ページ）の［シャッター］で［**分離チャージ**］を選ぶと、シャッターチャージ音に配慮して静かに撮影できます（27ページ）。

c. **C：連続撮影**
シャッターレリーズボタンを押し続けると8枚まで連続して撮影できます。連続して撮影できる枚数は、メモリーカードとバッファメモリーの容量によって異なります（「メモリーカードを入れる/取り出す」、21ページ）。

d. **⏲：セルフタイマー**
シャッターレリーズボタンを押すとセルフタイマー（69ページ）が作動し、設定した時間が経過すると撮影されます。

電源を入れる
メインスイッチを「**S**」、「**C**」、「**⏲**」のいずれかにセットすると電源が入ります。電源が入るとLED（1.31）が数秒間点灯し、ファインダー内のデジタル表示（2.1.1）が現れます（10ページ）。

メモ
電源を入れてから約1秒後にライカM9が使用できる状態になります。

電源を切る
メインスイッチを「**OFF**」にします。メニュー設定で自動的に電源が切れるように設定した場合（［**オートパワーオフ**］（5.1.12）、31、35ページ）は、メインスイッチを「OFF」にしなくても自動的に電源が切れます。オートパワーオフ作動中はカメラは操作できません。

メモ
ライカM9を長時間使用しない場合や、ケースなどに入れて持ち運ぶ場合には、必ずメインスイッチを「OFF」にして電源を切ってください。電力消費は、スタンバイモードで、露出計が自動シャットダウンした後や、表示が消えた後でも行われています。メインスイッチを「OFF」することによりこれらの電力消費を防ぐことができます。またスタンバイモードから復帰直後に誤ってシャッターを切ってしまうことを防止します。

撮影モード/再生モードを選ぶ

電源を入れた後は常に撮影モードになります。ライカM9が使用できる状態になっても（24ページ）、液晶モニター（1.32）には何も表示されません。

画像を再生するには、次の2つのモードのどちらかを選びます。

1. **PLAY**モード　時間の制限なく画像を表示します。
2. **オートレビューモード**　撮影直後の画像を自動的に表示します。

時間の制限なく画像を表示する – PLAYモード

PLAYボタン（1.26）を押します。

- **PLAY**モードに切り替えると、最後に撮影した画像が撮影情報とともに表示されます（11ページ）。メモリーカードに画像が何も記録されていない場合は、**PLAY**モードに切り替えると「**フォルダーLEICAに再生可能な画像がありません**」というメッセージが表示されます。

撮影直後の画像を自動的に表示する
– オートレビューモード

撮影直後に画像が自動的に液晶モニター（1.32）に表示されます。思ったとおりに撮影できたか、あるいはもう一度撮影し直す必要があるか、素早く簡単にチェックできます。オートレビューモードでは、次の2つの機能が設定できます。

1. 画像が表示される時間
2. ヒストグラム（30ページ）の表示/非表示

オートレビューモードの機能を設定する

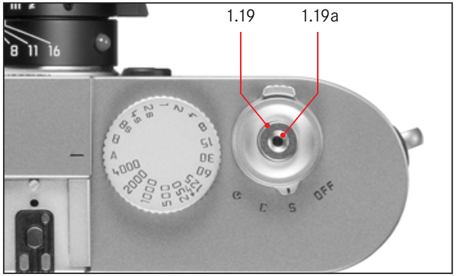
1. メインメニュー（14、31ページ）で［**オートレビュー**］（4.1.14）を選びます。
2. サブメニューで［確認時間］を選びます。
3. 次のサブメニューで［**オフ**］、［**1秒間**］、［**3秒間**］、［**5秒間**］、［**保留**］から設定内容を選びます。
4. ヒストグラム（30ページ）の表示/非表示を選ぶには、最初のサブメニューをもう一度表示します。
5. ［**ヒストグラム**］を選びます。
6. 次のサブメニューで［**オン**］、［**オフ**］から設定内容を選びます。

オートレビューモードから**PLAY**モードにはいつでも切り換えることができます。

メモ

連続撮影時（27ページ）は、連続撮影された画像の中の最後の画像、もしくはカードに保存された連続画像の最後の画像がどちらのモードでも表示されます。この時点では、バッファメモリーの連続撮影画像の中には、まだカードに上書きされていないものがあります。連続撮影時に違う画像を表示する方法など、再生モードのその他の機能については、「再生モード」（62ページ～）をご覧ください。

シャッターレリーズボタン



シャッターレリーズボタン（1.19）の作動ポイントは3段階です。

1. 最初の作動ポイントでは、露出計とファインダー内表示が作動します。また、セルフタイマー設定時にはセルフタイマーが作動します（69ページ）。
   レリーズボタンを離しても露出計とファインダー表示はその後約12秒間作動します（「露出計をオン/オフにする」、47ページ）。
   この作動ポイントで押したままにすると、ファインダーはそのまま表示を続けます。PLAYモード（62ページ）時にこの作動ポイントまで押すと、撮影モードに切り換わります。スタンバイモード（24ページ）時にこの作動ポイントまで押すと、ライカM9の電源が入り、ディスプレイ表示が作動します。
   また、この作動ポイントで押したままにすると、メイン設定リングを使って素早く簡単に露出を補正できます。詳しくは「露出補正」（49ページ）をご覧ください。

メモ
次のいずれかの場合はシャッターレリーズボタンがロックされます。
– バッファメモリーが（一時的に）いっぱいのとき（8枚以上の連続撮影後など）
– メモリーカード容量がいっぱいで、バッファメモリーも（一時的に）いっぱいのとき

2. 2番目の作動ポイントでは、絞り優先AEモード時に露出値、すなわちライカM9が自動設定したシャッタースピードを固定します（「AEロック」、48ページ）。シャッターレリーズボタンを離せば、露出値を解除できます。
3. シャッターレリーズボタンを全押しすると撮影できます。画像データはメモリーカードに記録されます。

シャッターレリーズボタンには、標準的なケーブルレリーズ用のねじ穴が付いています。

メモ
- ケーブルレリーズを使用する場合は、2番目の作動ポイントは機能しません。
- 既に再生モード（「撮影モード/再生モードを選ぶ」、25ページ）またはメニュー画面（30ページ）が有効になっていた場合にはシャッターレリーズボタンを押すと、撮影モードに切り換わります。
- メニュー画面では電子音を選ぶこともできます（35ページ）。
- カメラブレを防ぐために、シャッターレリーズボタンはいきなり強く押さず、そっと押し込んでください。

連続撮影

ライカM9は、1枚ずつの撮影だけでなく、動きのある被写体を数段階で続けて写すなどの連続撮影もできます。1枚ずつ撮影するときはメインスイッチ（1.18）を「S」（シングル）に、連続撮影するときは「C」（コンティニュアス）にします。

連続撮影の方法は、シャッターレリーズボタン（1.19）の操作以外はシングル撮影と同じです。連続撮影するときは、シャッターレリーズボタンを押し続けてください（ただし、メモリーカード容量が十分である必要があります）。メインスイッチを「C」にしてもシャッターレリーズボタンを押すのが一瞬ならば、通常のシングル撮影になります。

連写速度は最大で約2コマ/秒、連続撮影枚数は8コマです。

メモ

- 上記はISO160。DNGフォーマット時の撮影枚数です。上記以外の条件では、撮影枚数が減ったり、速度が遅くなる場合もあります。
- 連続撮影時の撮影数が何枚であろうと、連続撮影された画像の中の最後の画像、もしくはカードに保存された連続画像の最後の画像がどちらのモード（25ページ）でも表示されます。この時点では、バッファメモリーの連続撮影画像の中には、まだカードに上書きされていないものがあります。

静音撮影/衝撃の少ない作動

できるだけ静かに撮影したい場合には、一時的にシャッターチャージ音を抑えることができます。またカメラをできる限り静かに作動させるのが求められる場合もあります。これを有効にするためにはメニュー画面でシャッターレリーズの動作方法を変更します。

静音撮影/衝撃の少ない作動の設定

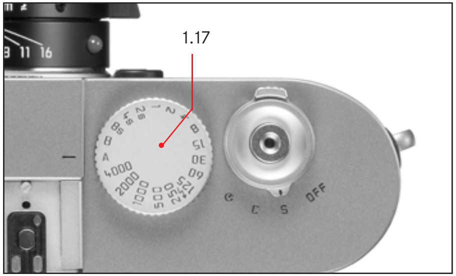
1. メインメニュー（14、31ページ）で［**シャッター設定**］（4.1.3）を選びます。
2. サブメニューで**標準**、**静音チャージ**、**分離チャージ**、**分離＆静音**の中から動作方法を選びます。

静音チャージ機能では、シャッターは、そのシャッターレリーズボタンの2番目の作動ポイントで切られます。これにより通常レリーズボタンを押し込む際に発生するカメラブレを軽減することができ、シャッタースピードが遅い条件下で撮影する際に有効です。

分離チャージ機能を選ぶと、シャッターを切った直後（撮影直後）ではなく、指をシャッターレリーズボタンから離した直後にシャッターがチャージされるようになります。つまり、シャッターを切ってもシャッターレリーズボタンを押し続けていれば、シャッターチャージ音が聞こえることはありません。上着の中などの音が漏れない場所にライカM9を入れてから、あるいは音を立てても問題のない瞬間まで待ってから、シャッターレリーズボタンから指を離せば、シャッターチャージ音のタイミングをずらして静かに撮影できます。

静音チャージ機能は、シングル撮影モードでも連続撮影モードでも使えますが、**分離チャージ**機能が使えるのは、シングル撮影モード（メインスイッチ（1.18）を「**S**」にします）のときだけです。分離チャージモードで連続撮影を行うとカメラが正常に作動しないことがあります。

シャッタースピードダイヤル



ライカM9のシャッタースピードダイヤル（1.17）は、人間工学に基づいた最適なサイズ・配置になっています。ファインダーをのぞいたままでも操作しやすい一方で、誤って設定を変えてしまうことはありません。
設定時の回転方向はファインダー内の露出計の表示に合わせています（レンズの絞りリングも同じです）。例えば、ファインダー内で左側の三角形のLED（2.1.2）が点灯したときは、三角形が示す方向、すなわち右回りに回せば、シャッタースピードを遅くして適正露出を得ることができます。

シャッタースピードダイヤルは、露出モードを選ぶときにも使います。

- 絞り優先AEモード：赤の「**A**」に合わせます（48ページ）。
- マニュアルモード：シャッタースピードを選びます。$^{1}/_{4000}$～8秒の範囲で$^{1}/_{2}$ステップごとに設定できます（52ページ）。

また、次の位置にも設定できます。

- フラッシュ同調速度：$^{1}/_{180}$秒です。「⚡」に合わせます（55ページ）。
- バルブ撮影：「**B**」に合わせます（52ページ）。

シャッタースピードダイヤルは、一定の位置でストップする構造ではありません。どの位置からでもどの方向にも自由に回すことができます。なお、クリックストップで止まる位置以外には設定できません。

メモ

- ISO感度を高めに設定した場合は、特に暗く平らな被写体でノイズが目立つことがあります。ライカM9では、このようなノイズを軽減するために、遅いシャッタースピード（約$^{1}/_{30}$秒以下、その他の設定内容により異なります）で撮影したときは、撮影直後に自動的に“ブラックピクチャー”（シャッターを閉じた状態でノイズだけを撮影した画像）を再撮影し、本来の画像の上にノイズ画像を重ね、デジタル処理で減算することによりノイズを除去します。
- 長時間露光では、このように“露光”を2度行うため、通常より長く時間がかかります。この機能が動作している間は、ライカM9の電源を切らないでください。
- 2秒以下の遅いシャッタースピードで撮影した場合は、液晶モニターに「**ノイズリダクション　××s（秒）**」というメッセージが表示されます。
- 「**B**」に設定してセルフタイマー（69ページ）を使用するときは、シャッターレリーズボタンを押し続ける必要はありません。シャッターレリーズボタンをもう一度押すまでシャッターは開いた状態になります（Tモードと同様に機能します）。

適正露出の設定方法については、「露出を設定する」（47ページ～）の各項目をご覧ください。

液晶モニター

ライカM9は大型2.5型のカラー液晶モニター（1.32）を搭載しています。液晶モニターには、メモリーカードに記録した画像を表示することができます。また、1枚の画像全体とともに、撮影情報を同時に表示することもできます（「液晶モニター/撮影情報の表示」、11、15ページ、次節）。

メモ

ライカM9の液晶モニターでも、画像を表示できるのは再生モード（62ページ）時のみです。画像を表示するには、**PLAY**ボタン（1.26）を押して**PLAY**モードにするか、撮影直後の画像を自動的に表示する**オートレビューモード**（25ページ）にしてください。

初期設定では、次の撮影情報だけが表示されます。（**INFO**ボタンで他の情報が選択されていない場合）

1. 画面上部のラインには、シャッタースピード（3.2.2）、ISO感度（3.2.3）、画像番号/総画像数（3.2.4）のみが表示されます。
2. 画像プロテクトマーク（3.2.1、）：プロテクトされている画像（66ページ）に表示されます。
3. 拡大表示のマーク（3.2.5、）：画像を拡大表示したときに、表示されている範囲とそのサイズをおおまかに示します。画面右下に表示されます。
4. 4コマないし9コマの縮小表示の場合、選択された画像をマークする赤い枠が表示されます。

液晶モニターの明るさ

液晶モニターの明るさを5段階で調整できます。周囲の光量に合わせてもっとも見やすい明るさを選んでください。調整はメインメニューで行います。

液晶モニターの明るさを調整する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**液晶明るさ**］（4.1.11）を選びます。
2. サブメニューで［**低**］、［**中低**］、［**標準**］、［**中高**］、［**高**］から明るさを選びます。

基本設定/撮影モードのデータの表示

カメラが撮影モードになっている場合、**INFO**ボタン（1.22）でバッテリー容量およびメモリーカード容量を、またいくつかの撮影基本設定（11ページ）を表示させることができます。

再生モードでの撮影情報の表示

カメラが再生モードの場合、**INFO**ボタン（1.22）を押すと、すべての撮影情報（12ページ）を表示できます。画像は縮小サイズで同時に表されます。
メインメニュー（14、31ページ）の［**ヒストグラム**］（5.1.9）では、ヒストグラムの表示方法を選択できます（「ヒストグラム」、次のページ）。

ヒストグラム

ヒストグラム（3.3.2）とは、画像の輝度分布を示すグラフです。横軸は明るさを黒（左端）～灰色～白（右端）で表し、縦軸はそれぞれの明るさの画素数を表します。撮影後、画像自体の印象とともにこのグラフを見ることで、露出状況が素早く簡単にチェックできます。

ライカM9では、総合的な明るさの分布を示す標準モードと、赤、緑、青の3原色別に明るさの分布を示すRGBモードからヒストグラムの表示方法を選べます。また、どちらのモードでも、明るすぎるために色の情報が失われている部分を赤色で表示するクリップ機能のあり/なしを選べます。

メモ

ヒストグラム表示は、常に画像内で現在表示されている範囲を反映します。

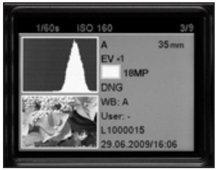
A



B



C



A: 暗い画素がほとんどで明るい画素がわずかしかない：露出アンダー

B: ほとんどの画素が平均的に明るい：適正露出

C: 明るい画素がほとんどで暗い画素がわずかしかない：露出オーバー

ヒストグラムの表示方法を設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**ヒストグラム**］（4.1.12）を選びます。
2. サブメニューで［**標準**］または［**RGB**］、もしくは［**クリップ設定**］から選び、それに対応したサブメニューを呼び出します。

クリッピング表示のその他の設定

3. **クリッピング設定**のサブメニューで、この表示をオフにするか、露出オーバー（赤）だけを表示するか、露出オーバーと露出アンダー（赤と青）を表示するかを選びます。

メモ

複数の画像を縮小して同時に表示している場合（63ページ）は、ヒストグラムを表示できません。

メニュー設定

メインメニューと撮影情報メニューの2種類のメニュー（14、31ページ）を使ってさまざまな機能を設定できます。絞り優先AEモードと露出のマニュアルモードでは、メインメニューと撮影情報メニューを操作できます。メインメニューは28項目（4.1.1-28）から構成され、その他に撮影情報メニューがあります。グループ化と分離によって、経験上最もよく使うメニュー項目は、最も迅速に、かつ簡単に調節、設定できるようになっています。
スナップショットプロファイル（14、53ページ）では、メインメニューの5項目のみ設定できます。それら5項目（4.1.7 / .22 /.23 / .25 /.27）はカメラの基本設定に関するもので、一度設定すれば頻繁に設定し直す必要のないものです。

メモ

スナップショットプロファイルでは、ほとんどのメニュー項目は特定の設定内容に固定されるため、設定内容を変更することはできません。設定できるメニュー項目については、「メニュー一覧」（14、15ページ）をご覧ください。

メインメニュー

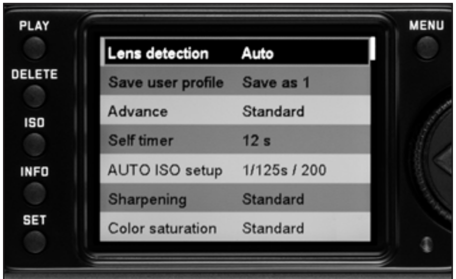
メインメニューでは、絞り優先AEモードとマニュアルモードの場合、カメラの基本設定の他にプロファイルの登録および補助的な機能の登録を行います。

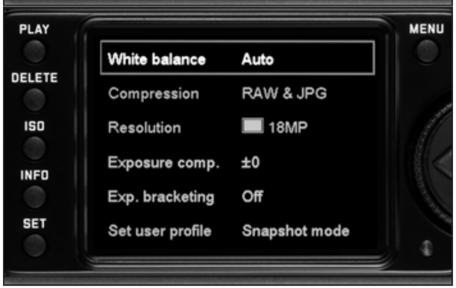
撮影情報メニュー

撮影情報メニューには6項目あります（4.2.1～6、15ページ）。撮影時の基本設定や登録したプロファイルの呼び出しを行います。
ライカM9の電源を入れてSETボタンを押すと、各項目の一覧とその詳しい設定方法が液晶モニター（1.32）に表示されます。
これらのメニューでは、メニュー画面の表示・終了方法は異なりますが、項目を設定するときの操作方法は同じです。

メニューを使って設定する

1. メインメニューを表示するには、**MENU**ボタン（1.28）を押します。撮影情報メニューを表示するには、**SET**ボタン（1.21）を押します。
   - メインメニューを表示させるとすべての項目の中から最初の7項目が（スナップショットプロファイルでは設定できる5項目すべて）、撮影情報メニューを表示させると6項目すべてが表示されます。

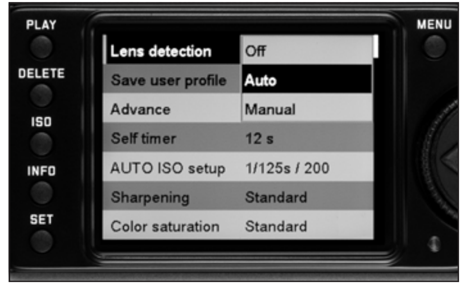


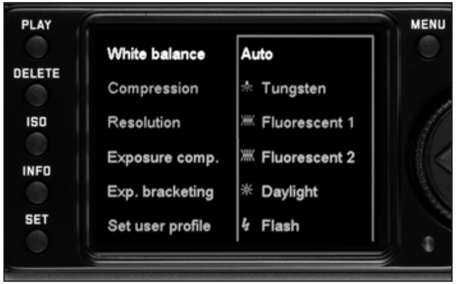


メモ

- 撮影情報メニューは、撮影モード（25ページ）からのみ表示させることができます。
  – 撮影情報メニューは、絞り優先AEモード（48ページ）時とマニュアルモード（52ページ）時のみ表示させることができます。スナップショットプロファイルでは、**SET**ボタンを押しても撮影情報メニューは表示されません。
- 画像の消去またはプロテクト（65、66ページ）の操作中は、メインメニューを表示できません。

2. メイン設定リング（1.30）または十字キー（1.29）の上/下のキーで、設定したいメニュー項目をハイライト表示させます。





3. **SET**ボタンを押します（撮影情報メニューでは2度押すことになります）。
   - メニュー項目の右に、赤い枠で囲まれた設定内容の一覧がサブメニューとして表示されます。現在選択されている設定内容はハイライト表示されます。
4. メイン設定リングまたは十字キーの上/下のキーで、選びたい設定内容をハイライト表示させます。
5. **SET**ボタンを押して設定を実行します。
   - 設定内容がメニュー項目の右に表示されます。
6. メインメニューを終了するには、**MENU**ボタンを押します。撮影情報メニューを終了するには、次のどちらかの操作を行います。
   a. 撮影モードに切り換えたいときは、シャッターレリーズボタン（1.19）を押します。
   b. 再生モード（**PLAY**モード）に切り換えたいときは、**PLAY**ボタン（1.26）を押します。

メモ
- メインメニュー画面では、**MENU**ボタンを押すと設定内容を変更せずにサブメニューを終了することができます。
- どちらのメニュー画面でも、シャッターレリーズボタン（1.19）を押せば撮影モードに、**PLAY**ボタン（1.26）を押せば**PLAY**モードに切り換えることができます（「撮影モード/再生モードを選ぶ」、25ページ）。

［**日付**］（4.1.22）、［**時間**］（4.1.23）、［**WB**］（4.2.1）では、さらに数値を直接設定します。数値の設定方法やその他のメニュー項目での設定方法については、各項目の説明をご覧ください。

カメラの基本設定

メニュー言語
お買い上げ時はメニュー言語が英語に設定されており、すべてのメニュー項目が英語で表示されます。英語以外には、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、日本語、ロシア語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）から選択できます。

メニュー言語を設定する
1. メインメニュー（14、31ページ）で［**Language**］（4.1.25）を選びます。
2. サブメニューで言語を選びます。
   - ボタンの名称と略称以外はすべて選択した言語に表記が変わります。

日付・時間
日付と時間は、それぞれ別のメニュー項目で設定します。

日付
3種類の並び順から選択できます。

日付を設定する
1. メインメニュー（14、31ページ）で［**日付**］（4.1.22）を選びます。
2. サブメニューを表示します。［**設定**］と［**順序**］の2つの設定内容が表示されます。
3. ［**設定**］を選びます。
   - 次のサブメニューで年、月、日の数値が表示されます。現在選択されている（数値を変更できる）項目は赤い枠に白黒反転でハイライト表示されます。
4. 十字キー（1.30）の右/左のキーで項目を選び、メイン設定リング（1.29）または十字キーの上/下のキーで数値を選びます。

メモ
- メイン設定リングを使えばより早く簡単に設定できます。
- **MENU**ボタン（1.28）を押すと、サブメニューの設定内容を変更せずにメインメニュー画面に戻ることができます。

5. 年、月、日の数値を設定したら、**SET**ボタン（1.21）を押して設定を実行します。
   - サブメニュー画面に戻ります。
6. 年、月、日の並び順を変えるときは、サブメニューで［**順序**］を選びます。
   - ［**日/月/年**］、［**月/日/年**］、［**年/月/日**］の3種類が表示されます。
7. ［**設定**］と同様の手順で並び順を選び、**SET**ボタンを押して設定を実行します。

メモ
バッテリーが入っていなかったりバッテリーが消耗してしまったりしても、日付と時間の設定は内蔵のバックアップ電池により約3ヶ月保存されます（「バッテリー残量表示（3.2）」、20ページ）。約3ヶ月経過して設定が失われてしまった場合は、本ページの手順に従って設定し直してください。

時間

24時間と12時間の表示形式から選択できます。

時間を設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**時刻**］（5.1.19）を選びます。
2. サブメニューで［**設定**］または［**表示**］を選び、表示形式と時・分の数値を設定します。

操作方法は［**日付**］と同様です。

オートパワーオフ

設定された時間が経過つと自動的に電源が切れる機能です。［オートパワーオフ］で電源が切れた状態は、メインスイッチを「**OFF**」（1.18）にして電源を切ったときと同じです（24ページ）。

［オートパワーオフ］では、次の機能が設定できます。

a. ［オートパワーオフ］のオン/オフ

b. 電源が切れるまでの時間

用途に合わせて設定できるほか、バッテリー消耗を大幅に抑えることができます。

オートパワーオフを設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**オートパワーオフ**］（4.1.15）を選びます。
2. サブメニューで設定内容を選びます。

   メモ

   スタンバイモード時（シャッターレリーズボタンを最初の作動ポイントまで押し込んでから指を離して12秒後に液晶モニターの表示が消灯した状態）や［**オートパワーオフ**］で電源が切れた状態では、シャッターレリーズボタン（1.20）を押すとカメラが使用できる状態に戻ります。

電子音

ボタン操作やメッセージ表示を電子音でお知らせするように設定できます。音量は2段階で調整できます。電子音が鳴らないようにすることもできます。

ボタンを押したときやメモリーカードがいっぱいになったときにクリック音やブザー音でわかるよう、それぞれ個別に設定できます。

メモ

お買い上げ時の設定は電子音がオフです。

電子音を設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**電子音**］（4.1.24）を選びます。
2. サブメニューを表示します。［**ボリューム**］、［**クリック音**］、［**SDカード満杯**］の3つの設定内容が表示されます。
3. ［**ボリューム**］を選びます。
   - 次のサブメニューで［**切**］（無音）、［**低**］（音量・小）、［**高**］（音量・大）が表示されます。
4. 音量を選びます。
   - 終了すると最初のサブメニュー画面に戻ります。
5. 他の2つの設定内容では、それぞれの場合で電子音をオンにするかオフにするかを選びます。

レンズ検出のオン/オフ

現在販売されているMレンズを装着した場合、マウント部に付いている6ビットコード（1.11）により、ライカM9はレンズの機種を検出します。6ビットコードは6ビットコード検知センサー（1.10）で読み取ります。

- 読み込んだ情報は、画像データの最適処理に利用します。広角レンズを使ったり絞りを開いたりしたときに目立ちがちな口径食を抑えます。
- フラッシュ調光やフラッシュユニットのリフレクターの調整にも、読み込んだ情報を利用します（「対応フラッシュユニット」、55ページ）。
- 読み込んだ情報は、撮影画像のExifファイルに記録されます。**INFO**ボタンで撮影情報を表示させると（「液晶モニター」、29ページ）、撮影時に設定した焦点距離（3.3.7、12ページ）が表示されます。

メモ

6ビットコード付きではないレンズを使用する場合、レンズ検出機能をオフにするか、または使用するレンズをマニュアルで設定してください（36ページ）。

レンズ検出機能を設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**レンズ検出**］（4.1.1）を選びます。
2. サブメニューで次の設定の中から選びます。
   - ［**オフ**］
   - ［**オート**］：コード付きのレンズが装着されているとき
   - ［**マニュアル**］：コード付きでないレンズが装着されているとき

レンズ/焦点距離のマニュアル設定

旧式のMレンズは識別機能がなくカメラ本体によっては認識されませんが、「識別」はメニューで行うことができます。

3. ［**マニュアル**］のサブメニューのリストから使用するレンズを選んでください。
   - 液晶モニター（1.32）にはレンズのリストが表示されます。これには識別のためにそれぞれの製品番号も記載されています。

メモ

- 多くのレンズは、被写界深度スケールの反対側に製品番号が刻印されています。
- リストには、6ビットコードを持たないレンズ（およそ2006年6月以前のもの）を記載しています。最近のレンズはすべて6ビットコードが付けられており、マニュアルでは選択できません。
- トリ・エルマーM f4/16-18-21mm ASPHをご使用の場合、設定された焦点距離はカメラ本体には転送されません。そのため撮影画像のEXIFデータにも記載されません。記載をお望みならば、マニュアルで焦点距離を入力することができます。
- トリ・エルマーM f4/28-35-50mmASPH.の場合、設定した焦点距離がライカM9に転送され、対応するブライトフレームが正しく表示されます。また、設定した焦点距離は電子的に識別され、焦点距離別に画質が自動補正されます。しかし表示場所が狭いため、メニューに表示される製品番号は1つだけです – 11 625。もちろんその他に11 890および11 894も使用できます。メニューにある設定は、それらにも対応しています。

解像度
画像データを記録するときは、JPEGフォーマットでは5種類の解像度（画素数）から選べます。画像の用途やメモリーカード容量に合わせて最適な解像度を選んでください。
最大の解像度（データ容量が最大）は、大きな用紙でのプリントにふさわしい高い画質で記録するときに選びます。低い解像度は、eメールで画像を送ったりホームページに画像を載せたりする場合に最適です。メモリーカードに記録できる枚数は、高い解像度のほうが低い解像度よりも少なくなります。

メモ
RAW形式（DNG形式、次のページをご覧ください）で記録する場合は、常に最大の解像度で記録されます。

解像度を設定する
1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**解像度**］（4.2.3）を選びます。
2. サブメニューで解像度を選びます。

圧縮率/記録形式
画像データを記録するときは次の形式から選べます。
a. JPEG圧縮：**JPG fine**または**JPG basic**
b. **DNG、［圧縮なし］または［圧縮あり］**
c. **DNG+JPG fine**または**DNG+JPG basic**：1回の撮影で［**DNG**］と［**JPG**］の2つの形式で同時に記録します。JPGの解像度は設定されている値に固定されます。

画像の用途やメモリーカード容量に合わせて最適な圧縮率を選べます。［**RAW+JPG**］を選べば、撮影後に用途を決めたいときにも確実かつ柔軟に対応できます。

圧縮/記録形式を設定する
A. DNGフォーマットを選択する。
1. メインメニュー（14、31ページ）で［**DNG設定**］（4.1.19）を選びます。
2. サブメニューで［**圧縮なし**］か［**圧縮あり**］を選びます。

B. JPEG圧縮率もしくは記録コンビネーションを選択する。
1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**圧縮**］（4.2.2）を選びます。
2. サブメニューで圧縮率/コンビネーションを選びます。

メモ
- ［DNG］（デジタル・ネガティブ）とは、RAWファイル形式の標準フォーマットです。撮像素子が記録したデータをカメラ内で画像処理をせずに、そのまま保存します。
- 圧縮記録形式は、低い圧縮率を保ちます。これは、
  – 著しい品質低下を防ぎます。
  – 画像データの後処理を可能にします。
  – 高速で書き込みできます。
  – メモリーの消費を抑えます。
- ［**DNG**］では、解像度は自動的に「[redacted]（18MP）になります。［**DNG+JPG fine**］と［**DNG+JPGbasic**］でも、設定した［**JPG**］の解像度にかかわらず、［**DNG**］の解像度は自動的に「[redacted]」（18MP）になります（「**解像度**」、前のページ）。
- ［**DNG+JPG fine**］または［**DNG+JPG basic**］では、［**JPG**］の解像度はすでに設定されている値に固定されるため、［**DNG**］と［**JPG**］の解像度が異なることがあります。
- ［**JPG basic**］は圧縮率が高いため、画像の複雑な細部では、情報が失われたり正確に再現できなかったりすることがあります（斜めの線がギザギザになるなどのアーチファクトが発生します）。
- 表示される撮影可能枚数が撮影後に減らないことがあります。これは、記録に必要なデータ容量が被写体によって異なるためです。［**JPG**］の場合、複雑な細部には多めの、均一な表面には少なめのデータ容量が必要になります。

ホワイトバランス

ホワイトバランスはデジタルカメラ特有の機能で、光源に応じて自然な色合いで撮影できるようにするためのものです。ライカM9では、被写体の中の特定の色を白く写し出すように設定し、この白に基づいて色合いを調整します。ホワイトバランスは次の10種類の設定から選択できます。

– **オート**：　ホワイトバランスを自動的に調整します。ほとんどの状況下で自然な色合いに再現できます。
– 7種類のプリセット：よくある光源別に最適なプリセットを選べます。
– ：　タングステン：室内で白熱灯が主光源のとき
– [1]：　蛍光灯：暖色蛍光灯が主光源のとき、住環境で使用する白熱灯のような約2700Kほどの明かり。暖色蛍光灯
– [2]：　蛍光灯：寒色蛍光灯が主光源のときで（明るく）照明されたスタジオでの撮影、仕事部屋などで使用する約4000Kほどの明かり。寒色蛍光灯
– ：　デイライト：野外で晴天のとき
– ：　ストロボ光：フラッシュが主光源のとき
– ：　くもり：野外で曇り空のとき
– ：　日かげ：野外で主要被写体が日陰にあるとき
– ：　マニュアル：手動で調整します。
– **色温度設定**[1]：色温度を数値で直接設定します。

メモ

システムカメラアダプテーション（SCA）3000の条件を満たすフラッシュユニットとSCA-3502（バージョン4以降）アダプターもしくはそれに相当する内蔵の固定部を使用する場合は、「**オート**」に設定してもホワイトバランスが正しく調整されます。その他のフラッシュユニットを使用する場合は、「**オート**」では正しく調整されませんので、「 」に設定してください。

[1] 単位はすべてK（ケルビン）です。

ホワイトバランスを設定する

自動調整またはプリセットを選ぶ

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**WB**］（4.2.1）を選びます。
2. サブメニューで［オート］または希望のプリセットを選びます。

色温度を直接設定する

設定範囲は2000～13100K[1]です。2000～5000Kでは100Kステップごとに、5000～8000Kでは200Kステップごとに、8000～13100Kでは300Kステップごとに調整できます。撮影において実際にありえる色温度の範囲をほぼすべてカバーしているので、光源に応じてきわめて自然に、または好みに合わせて、色合いを再現することができます。

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［WB］（4.2.1）を選びます。
2. サブメニューで［**色温度設定**］を選びます。
3. メイン設定リング（1.29）または十字キー（1.30）の上/下のキーで数値を選びます。
4. **SET**ボタンを押して設定を実行します。

手動で調整する

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**ホワイトバランス**］（4.2.1）を選びます。
2. サブメニューで ［マニュアル］を選びます。
3. **SET**ボタン（1.21）を押します。
   - 液晶モニターに 注意： カメラを白い被写体にむけシャッター釦を押してください というメッセージが表示されます。
4. 中心に白またはニュートラルグレーのものがくるようにして撮影します。撮影するとホワイトバランスの基準が設定されます。
   - 撮影後、メニュー画面の代わりに撮影画像が表示され、 WBを設定 というメッセージが表示されます。露出が適切でなかったり、被写体がニュートラルでなかったりした場合には、 露出不適切 または WB未設定 というメッセージが表示されます。適正露出に設定し直すかニュートラルの被写体を選んで、手順2.から繰り返してください。

設定された基準は、基準を設定し直すか別のホワイトバランス設定を選ぶまで、そのままその後の撮影に使用できます。

メモ

記録したホワイトバランスの基準は、別のホワイトバランス設定を選んだ後でも呼び出すことができます。記録した基準を呼び出すには、手順1.～3.までを繰り返し、手順4.の代わりに**SET**ボタンを押します。

[1] 単位はすべてK（ケルビン）です。

ISO感度
ISO感度は、光に対する感度を表すものです。フィルムカメラでは、ISO感度はフィルム感度を表します。同じ明るさでの撮影であれば、ISO感度が高いフィルムほどシャッタースピードは速く、絞り値は大きくでき、ISO感度が低ければシャッタースピードは遅く、絞り値は小さくする必要があります。
ライカM9は、ISO感度160～2500の範囲に対応しています。画質を低下させないためには、ISO感度を［**160**］に設定します。ISO感度が高くなるほど、高感度フィルム使用による“ざらつき”に相当するノイズが発生しやすくなります。
［**Pull 80**］に設定するとISO感度はISO 80の明るさになります。この設定で撮影すると、最も低いコントラスト範囲になります。この感度を使用する場合、主要な画像部分が過度に露出されないようご注意ください。
設定は1/3ステップで調整され、設定したISO感度に応じてそれぞれの状況にふさわしいシャッタースピードと絞り値を設定できます。

マニュアル設定の他、ライカM9はISO感度を［**ISOオート**］にも設定できます。［**ISOオート**］を選ぶと、明るさに応じてISO感度が自動設定されます。絞り優先AEモード[1]（48ページ）で［**ISOオート**］を選ぶと、自動設定されるシャッタースピードの範囲が4段分まで広くなります。
［**ISOオート**］では、撮影意図に合わせて、自動設定されるISO感度の上限や、［**ISOオート**］が作動するシャッタースピードの基準を、あらかじめ設定しておくこともできます[2]。ISO感度の上限設定はノイズを抑えたいときなどに、シャッタースピードの基準の設定はカメラブレを抑えたいときなどに便利です。

ISO感度を設定する
1. ISOボタン（1.23）を押し続けます。
   - 液晶モニター（1.32）には、実行できる設定が表示されます。
2. SETボタン（1.21）を押したまま、メイン設定リング（1.29、前後）で、または十字キー（1.30、行または列）でお好みの感度を選択し設定します。

[1] マニュアルモード時またはフラッシュユニット使用時は、この効果は得られません（フラッシュ同調速度は常に1/180秒です）。スナップショットプロファイル（53ページ）時は、常にこの効果が得られます。
[2] スナップショットプロファイルでは設定できません。

メモ
リストは、ISOボタンを離した後、2秒間表示されます。リストが消えた後に値が設定されます。

［**ISOオート**］を選んで、自動設定されるISO感度の上限や、［**ISOオート**］が作動するシャッタースピードの基準を設定する場合は、手順3.へ進みます[2]。

3. メインメニュー（14、31ページ）で［**ISOオート設定**］（4.1.5）を選びます。
4. サブメニューで［**最大ISO**］または［**最大シャッター**］を選びます。
5. 自動設定されるISO感度の上限を設定するには、
   - サブメニューで［**最大ISO**］を選び、次のサブメニューで数値を選びます。
   - ISO感度が自動設定されるシャッタースピードの基準を設定するには、サブメニューで［**最大シャッター**］を選び、次のサブメニューで数値を設定するか、［**レンズ依存**］[3]を選びます。
   - 数値の場合は、1/125～1/8秒の範囲で、無段階で設定できます。

   ［**レンズ依存**］を選ぶと、周囲の光量が少ないためにシャッタースピードが手持ち撮影でブレない限界よりも遅く設定された場合にのみ、ISO感度が自動的に高めに切替ります。手持ち撮影でブレないシャッタースピードの限界は、使用レンズ別に「焦点距離分の1秒」で算出されます。例えば35mmレンズならば、1/30秒となります。

[3] 6ビットコード付きレンズまたは6ビットコード付きに改造したレンズ（22ページ）を装着した場合のみ機能します。

メモ

- ブラケティング撮影（51ページ）を使用するとすべての**オートISO設定**が確定されます。
  - 最初の撮影でカメラが自動的に算定した感度は、ブラケティング撮影時には他の撮影のすべてに適用されます。つまりこのISO値は、ブラケティング撮影の間変更されることがありません。
  - ［**ISOオート**］のサブメニューでの設定は機能しません。つまりカメラの使用可能なシャッタースピードの範囲が、すべての範囲で利用されます。

画質を決める要素
– コントラスト/シャープネス/色の彩度

デジタルカメラには、多くのメリットがあります。そのひとつは、画像の質を決める大切な要素を簡単に調整できることです。画像処理ソフトを使えばさまざまな画質調整ができますが、まず記録した画像データをパソコンに取り込む必要があります。ライカM9では、画質の決め手となる次の3つの大事な要素をあらかじめ調整してから撮影できます。

- コントラスト：明るい部分と暗い部分の差のことで、画像が“単調”であるか“鮮明”であるかを決める要素です。コントラスト調整とは、明るい部分をより明るくして暗い部分をより暗くするなど、明暗の差に強弱をつけることです。
- シャープネス：きれいに撮影するには、少なくとも主要被写体だけには正確にピントを合わせてシャープに描き出さなければなりません。画像がシャープな印象になるかどうかは、輪郭がシャープであるかどうか、すなわち画像の輪郭部において明暗の境界部分がどれだけ小さいかで決まるといっていいでしょう。シャープネス調整とは、この境界部分の大小を調整することです。
- 色の彩度：画像の色合いが“淡い”パステルカラーのように見えるか、“鮮やか”でカラフルに見えるかを決める要素です。画像の印象は、光の状況や天候（晴れか曇りか）によって大きく違ってきますが、彩度によっても明らかに変わってきます。

これらの3つの要素をメインメニューでそれぞれ別々に5段階で調整できます。撮影シーンや光の状況に応じて最適な設定を選んでください。［**彩度**］では、［**白黒**］および［**ビンテージ白黒**］にも設定できます。

メモ

この設定に該当するのは、JPEG記録形式での撮影だけです。圧縮率を［**DNG**］に設定しているときは、撮像素子が記録したデータを処理せずにそのまま保存するので、これらの調整はできません（データをパソコンに取り込んでから調整してください）。

コントラスト/シャープネス/色の彩度を調整する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**シャープネス**］（4.16）、［**彩度**］（4.1.7）、［**コントラスト**］（4.1.8）から調整したい要素を選びます。
2. サブメニューで［**低**］、［**中低**］、［**標準**］、［**中高**］、［**高**］から設定内容を選びます。

色空間

デジタル画像では、色を正しく再現する条件がさまざまな用途ごとに大きく異なるため、数種類の色空間が考案されています。sRGB（RGBは赤、緑、青を表します）は、一般的な印刷にふさわしい色空間です。Adobe RGBは、カラー補正などの高度な技術を用いる専門的な画像処理に最適で、商用印刷などで広く一般に使用されています。

色空間を設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**色空間**］（4.1.18）を選びます。
2. サブメニューで希望の色空間を選びます。

メモ

- 大型ラボ、ミニラボ、ネットプリントサービスで画像を印刷するときは、［**sRGB**］に設定してください。
- ［Adobe RGB］は、カラー処理技術が十分に整った環境で画像処理する場合にのみ設定することをおすすめします。

カメラの正しい構えかた





ブレのないシャープな画像を撮影するために、できるだけ楽な姿勢でカメラが動かないように構えてください。次のような“3点支持”は、安定感があってライカM9の構えかたとして最適です。まず、右手でカメラを持ち、人差し指をシャッターレリーズボタンの上に置き、親指でカメラの背面を押さえます。左手は、素早くピントが合わせられるようにレンズを下から支えるか、カメラを包み込むようにそえます。さらに、額と頬にカメラを当てて安定させてください。縦位置に構えて撮影するときは、そのまま両手の位置を変えずにカメラを左に回して縦にしてください。
カメラを右に回して縦にしても構いませんが、その場合は親指でシャッターを切ったほうが楽な場合もあります。

メモ

- 便利なアクセサリーとして、ライカM9をしっかり安定させて構えることができ、片手で楽に持ち運びできるようにもなる、ハンドグリップの使用をおすすめします（ブラック：コード番号14486、スチールグレー：コード番号14490）。
- ライカM9は、画像ごとに横位置撮影か縦位置撮影かを認識するセンサーを搭載しています。画像を転送したパソコンにこの機能に対応するソフトがあれば、パソコンのモニター上で縦位置撮影した画像を縦のまま表示できます（カメラの液晶モニターでは機能しません）。

ブライトフレームファインダー

ライカM9のブライトフレームファインダーは、明るくコントラストがはっきりした大型の高性能ファインダーで、画像の細部をすべて表現するだけでなく、ファインダー倍率0.68倍の高い精度の距離計連動式レンジファインダーにもなっています。

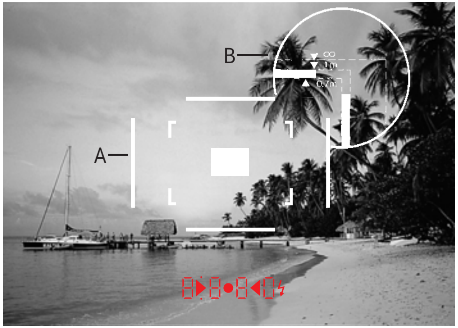
ブライトフレームの大きさは、撮影距離1mにおいて、ライカM9のフルフォーマットである24x36mmの撮像素子寸法にほぼ対応しています。

ブライトフレームは、フォーカシング機構と連動しているためパララックス（レンズとファインダー軸のずれ）はレンズのピントが合うと自動的に補正されるようになっています。ブライトフレームは、0.7mから無限までの範囲すべてで実際に撮影される範囲とほぼ同等になります。

ほぼ同等とは、撮影距離が1mより近距離では実際に撮影される範囲はブライトフレームのフレーム内側の範囲より幾分狭い範囲となり、撮影距離が長くなると、ブライトフレームのフレーム内側の範囲より幾分広い範囲となります。（右図）このように、実際の撮影ではほとんど問題とならないわずかな差異が生じます。

レンジファインダー式カメラのブライトフレームは、それぞれのレンズ焦点距離の画角に応じて調節されなければなりません。しかし、この画角はピント合わせのときに、レンズ繰り出し量の変化によって、つまり光学系とCCDセンサー面との距離によって変わってきます。

無限遠より近距離の被写体にピントを合わせた場合（レンズを繰り出したとき）は、実際に撮影される画角が小さくなり、ブライトフレーム内側の範囲全体を写すことができません。この現象はレンズの焦点距離が長くなるにしたがって、レンズの繰り出し量も大きくなることから顕著に現れます。



写真とブライトフレーム位置は焦点距離50mmのときのもの。

A　ブライトフレーム
B　実際の領域

0.7mに設定	センサーは、約1フレーム分小さくカバーします。
1mに設定	センサーは、ブライトフレームの内辺によって表示されたのとちょうど同じ領域をカバーします。
無限遠に設定	センサーは、水平方向に約1フレーム分、垂直方向に約4フレーム分大きくカバーします。

[1] 正確なフォーマットは23.9 x 35.8mmで、これはアナログのMモデルと同じです。

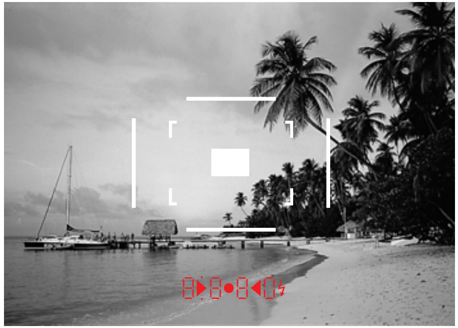
ブライトフレームが対応するレンズは、表示の焦点距離*が28mm（エルマリート28mmはシリアルナンバーが2411011以降のもの）、35mm、50mm、75mm、90mmのものです。これらのレンズを装着すると、28mmと90mm、35mmと135mm、50mmと75mmのブライトフレームの組み合わせの中から焦点距離に対応した1組が自動的にファインダーに表示されます。
ファインダーの中心には、ピント合わせ用の四角い測距枠が周辺よりも明るく表示されます。16〜135mmのレンズすべてが距離計と連動します。
露出計が作動すると、ファインダーの下部に露出値を示すLEDやフラッシュマークのLEDが点灯します。
ピント合わせ、露出時のファインダー表示、フラッシュ撮影時のファインダー表示については、46、47、55ページをご覧ください。

フレームセレクター

フレームレセクターレバー（1.8）により、ライカM9ファインダーの可能性が広がります。
このユニバーサルファインダーでは、フレームセレクターレバーにより、他の焦点距離にするとさらに構図がよくなるかどうかを確認することができます。
このレバーを外側にたおす、すなわちレンズから遠ざけると、焦点距離35mmと135mm用のフレームが表示されます。
レバーを中央位置で垂直に立てれば、焦点距離が 50mmと75mm用のフレームが現れます。
レバーを内側にたおす、すなわちレンズの方へたおすと焦点距離28mmと90mm用のフレームが現れます。



35mm + 135mm



50mm + 75mm



28mm + 90mm







ピントを合わせる

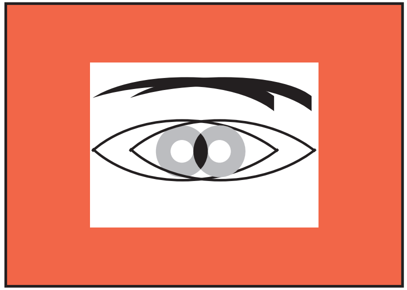
ライカM9は、距離計の基線長が長いため、非常に高精度のピント合わせが可能です。この点は、比較的被写界深度が大きい広角レンズを使用する場合に特に有効です。

メカニカル基線長（ファインダーの光軸とレンジファインダーの窓間の距離）	ファインダー倍率	= 有効基線長
69.25 mm	x 0.68倍	= 約47.1mm

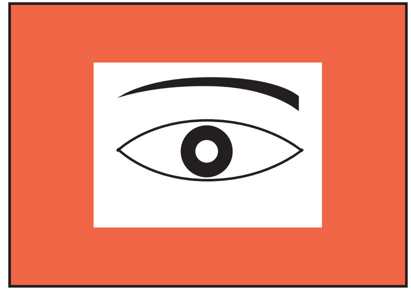
レンジファインダーの測距範囲は、ファインダー中心部分にある四角形の部分です。
大型ファインダー窓（1.6）を覆うと、ブライトフレームとレンジファインダーフィールドしか見えません。この明るいレンジファインダーにて、二重像合致式やスプリットイメージ的なピント合わせが可能になります。

二重像合致式ピント調整

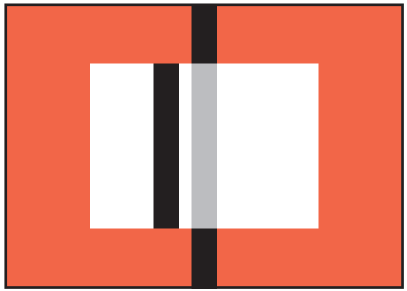
例えば、ポートレートを撮影する場合には、ファインダー測距域に被写体の目を合わせ、目の輪郭が重なるまでレンズのフォーカシングリングを回してください。それから、被写体の構図を決定します。



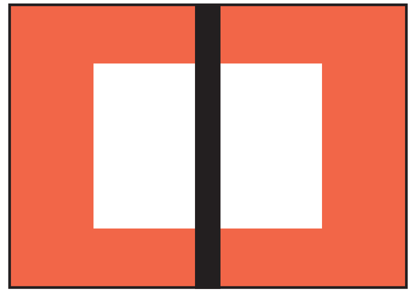
二重像＝ピントが外れている



像の合致＝ピントが合っている



線のズレ＝ピントが外れている



線の合致＝ピントが合っている

スプリットイメージ式ピント調整

建築物など、垂直線を持つ被写体を撮影する場合には、ファインダーの測距域に垂直線を合わせ、輪郭が測距域の端と端とを結ぶ直線になるまでレンズのフォーカシングリングを回してください。それから、被写体の構図を決定します。

実際には、2つ方法に明らかな違いはありません。2つの方法を組み合わせてピントを調整すればより効果的でしょう。

露出を設定する

ライカM9の測光方式は、実絞りによるTTL中央部重点測光です。シャッター先幕の色が明るくなっている領域からシリコンフォトダイオードに反射した光を測定します。

集光レンズのついたシリコンフォトダイオードは本体下部の中央に配置されています。

ファインダー内の表示や液晶モニターの表示を確認しながら、適正露出にふさわしいシャッタースピードや絞りを決定することができます。

絞り優先AEモードを使用すると、絞りを手動でセットすれば、カメラが自動的に適切なシャッタースピードを計算します。

このモードでは、LEDによるデジタル表示によって、シャッタースピード情報がファインダー内に表示されます。（例：1000）

シャッタースピードと絞りをマニュアルでセットする場合は、3つの赤いLED（▶•◀）からなる露出バランスを用いて、露出を調整します。

セッティングが適正であれば、中央の丸いLEDのみが点灯します。

露出計をオン/オフにする

まず、カメラのメインスイッチ（1.18）がオンになっていること、シャッタースピードダイアル（1.17）が「B」にセットされていないことを確認してください。

シャッターレリーズボタン（1.19）を最初の作動ポイントまで軽く押すと、露出計のスイッチがオンになります。

露出計がオンになると、ファインダー内のLED表示が露出モード別に次の状態になります。

- 絞り優先AEモード：LEDデジタル表示が点灯します。
- マニュアルモード：2つの三角形のLEDの一方か、中央の丸いLEDが点灯します。

シャッターをレリーズせずに指を離した場合は、露出計はそのまま約12秒間作動し、対応するLEDも点灯を続けます。

シャッタースピードダイヤルが「B」にセットされている場合は、露出計は作動しません。

メモ

- ファインダー内の表示が消灯した場合は、カメラは「スタンバイ」モードにあります。
- 輝度が非常に低い場合（測光範囲の限界にある場合）はLEDの点灯まで約0.2秒かかることがあります。
- 絞り優先AEモードのシャッタースピード制御範囲では、適正露出を得るのが不可能な場合、警告としてシャッタースピード表示が点滅します。詳しくは「絞り優先AEモード」（48ページ）をご覧ください。
- 露出計の測光範囲を下回るほど輝度が低い場合、マニュアルモードでは、警告として左側の三角形のLEDが点滅します。また、絞り優先AEモードでは、シャッタースピードが表示され続けます。適正露出に必要なシャッタースピードが最低速シャッターの32秒を下回れば、表示は点滅に変わります。
- 露出計が自動的にオフになり、ファインダー表示が消灯してスタンバイモードに入っても、バッテリーは消費され続けます。ライカM9を長期間使用しない場合やケースに収納して保管する場合は、無駄なバッテリー消費を抑えるだけでなく、誤って撮影されてしまうことを防ぐためにも、メインスイッチでライカM9の電源を切ってください。

露出モード

ライカM9では、絞り優先AEモードとマニュアルモードの2つの露出モードを使用することができます。被写体、撮影状況、あるいはお好みに選ぶことができます。

– 絞り優先AEモード：絞り値はマニュアル設定、シャッタースピードはカメラまかせの、オートモードです。
– マニュアルモード：マニュアル操作で絞り値とシャッタースピードを決める、従来のM型ライカでお馴染みのモードです。

絞り優先AEモード

シャッタースピードダイヤル（1.17）を「**A**」の位置にセットするとISO感度や測光結果、手動でセットした絞りに応じて、カメラの電子回路が$^{1}/_{4000}$秒～32秒の範囲内で、自動的に適正なシャッタースピードを無段階に算出します。

シャッタースピードは、半ステップずつの形で、カメラのファインダー内にデジタル表示されます。

シャッタースピードが2秒を上回る場合、シャッターをリレーズすると、ファインダー内のディスプレイには残り時間がカウントされます。

しかし、実際にはカメラの露出計が算出するシャッタースピードは、無段階に制御されており、ファインダーに表示される半ステップごとのシャッタースピードとは一致しないことがあります。例えば、シャッターをレリーズする前に、（近似値として）「**16**」がファインダーに表示されたとしても、算出されたシャッタースピードはもっと遅く、レリーズ後もカウントが「**19**」から始まることもあります。

極端な光の状況下で、必要とされる条件をすべて計算すると、シャッタースピードが露出計の測光範囲をオーバーすることがあります。輝度に対する適正なシャッタースピードが、$^{1}/_{4000}$秒を上回る、または32秒を下回るようなときです。このような場合には、$^{1}/_{4000}$秒または32秒のシャッタースピードが適用され、警告としてその値が点滅します。

AEロック（露出メモリーロック）

構図的な理由から、被写体の主要な部分をその中心から外さなくてはならないことや、また、その部分が平均よりも明るかったり、暗かったりすることが数多くあります。しかし、ライカM9のTTL測光は、平均的なグレースケールを基準にした、画面の中心だけを測光するシステムです。絞り優先AEモードで露出メモリーロックを使用すれば、このような被写体や状況にも、簡単に対応することができます。AEロックは絞り優先AEモードでのみ使用できます。

AEロックを使って撮影する

1. まず、カメラを動かして、最初のケースでは被写体の主要な部分に、2番目のケースでは平均的な明るさのディテール部にピントを合わせます。
2. 次に、シャッターレリーズボタン（1.19）を2番目の作動ポイントまで押して、露出を測定し、その値をロックします。レリーズボタンを押しつづけるかぎり、ファインダー内のシャッタースピードの数字の上には、メモリーロックの確認として赤い点が表示されます。たとえ明るさの状態が変わっても、シャッタースピードは変更されません。
3. シャッターレリーズボタンを押し続けたままで、カメラを目的とする被写体のフレームを合わせます。
4. そして、ホールドされたシャッタースピードで、シャッターをレリーズしてください。

測定した露出をロックしてから絞りを変更すると、シャッタースピードが調整されず、適正露出が得られません。

メモリーロックは、シャッターレリーズボタンの作動ポイントから指を離すと解除されます。

メモ

AEロックは、シャッター設定が**静音チャージ**に設定されているときには使用できません（27ページ）。

露出補正

露出計は、通常の被写体の明るさに相当する、平均的なグレースケール（反射率18%）に合わせて調整されています。被写体がこの条件に合わない場合や、使用目的の違いや個人的な好みなどから、露出をオーバー側やアンダー側にずらして撮影したい場合も数多くあります。

このようなケースが一連の撮影やフィルム全体に当てはまるのであれば、1コマにしか使用できないAEロック（露出メモリーロック）ではなく、露出補正が便利です。

露出補正では、AEロックとは異なり、露出補正値設定を解除するまで有効です。

露出補正値は、±3EVの範囲で$^{1}/_{3}$EVステップで設定できます（EVは「Exposure Value」の略で、露出量の単位です）。

露出を補正する

露出補正の設定は、撮影情報メニューあるいはメイン設定リングを使用し、3通りの方法があります。

またメニューを使っての設定か、設定リングによる設定かを選ぶことができます。

露出値を露出オーバー側や露出アンダー側にずらして撮影するときなどは、撮影情報メニューを使う方法をおすすめします。ファインダーをのぞきながら被写体を追う場合などは、メイン設定リングを使えば素早く露出補正できます。これにより突発的な露出状況の変化に対して確実な反応が可能になるでしょう。

A. 撮影情報メニューで設定する

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**露出補正**］（4.2.4）を選びます。
2. サブメニューで露出補正値を設定します。

B. メイン設定リングで設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**露出補正設定**］（4.1.10）を選びます。
2. サブメニューで［**ダイヤル**］を選びます。
3. メイン設定リング（1.29）を回すと露出補正を設定できます。時計方向に回すとプラスに、反時計方向に回すとマイナスになります。

設定された補正値は、それ以前の設定とは関係なく、撮影情報メニューにおいてEV値として表示され、ファインダーにはシャッタースピードの変更として表示されます。これらは以前の設定とは関係なく、どちらの方法でもリセットすることができます。

C. シャッターレリーズボタンとメニュー設定リングで

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**露出補正設定**］（4.1.10）を選びます。
2. サブメニューで［**ダイヤルレリーズ**］を選びます。
3. シャッターレリーズボタン（1.19）を最初の作動ポイントで止め、メニュー設定リング（1.29）を回して次の撮影のための露出補正を設定することができます。

[1] シャッターレリーズボタンの作動ポイントについての詳細は、26ページをご覧ください。

メモ
設定した露出補正値は、自然光の測光にのみ有効です。自然光での露出補正はライカM9で、フラッシュ撮影時のフラッシュ光量でのTTL調光補正はフラッシュユニットで、それぞれ別々に行ってください。
詳しくはフラッシュについての項目（55ページ～）をご覧ください。

プラス補正の例



例えば、雪や浜辺など非常に明るい被写体の場合は、輝度が高いレベルにあるために、露出計は比較的速いシャッタースピードを選択します。その結果、白い雪も平均的なグレーに写り、画面の人々は黒くつぶれてしまいます。これでは明らかに露出アンダーです。露出アンダーを補正するには、シャッタースピードを遅くするか、絞りを開く必要があります。このようなときは、例えば+1 $^{1}/_{3}$EVに補正してみてください。

マイナス補正の例



光をほとんど反射しないとても暗い被写体の場合、露出計は非常に遅いシャッタースピードを選択します。その結果、黒い自動車もグレーに写ってしまいます。これでは明らかに露出オーバーです。露出オーバーを補正するには、シャッタースピードを速くする必要があります。このようなときは、例えば-1に補正してみてください。

ブラケティング

魅力的は被写体とは、少なからず強いコントラストを持つ被写体です（非常に明るい部分と暗い部分を同時に持つ被写体）。そのため、露出を合わせた部分によって、撮影結果がまったく違ってしまうことがあります。このような場合には、オートブラケティングを使用して、露出を段階的に変えた写真を何枚か連続で撮影してから、その後の使用に適した最適な写真を選ぶことができます。それに加えて対応する画像処理ソフトウェアを使用して、露出の違う複数の撮影画像の中からコントラスト範囲が特に高い撮影画像を選択し合成することもできます（HDR）。

次のものが利用できます。

- 4通りの段階露出：0.5EVステップ、1EVステップ、1.5EVステップ、2EVステップごとのいずれかを選択可
- 3通りの撮影枚数：3枚、5枚、7枚のいずれかを選択可
- 2通りの撮影順序：適正露出、露出オーバー、露出アンダーの順番か、露出アンダー、適正露出、露出オーバーの順番を選択可

メモ

- ブラケティング撮影ではすべての**オートISO設定**（40ページ）が確定されます。
  - 最初の撮影でカメラが自動的に算定したISO感度は、連続撮影時には他の撮影のすべてに適用されます。つまりこのISO値は、連続撮影の間変更されることがありません。
  - ［**ISOオート設定**］のサブメニューでの設定は機能しません。つまりカメラの使用可能なシャッタースピードの範囲が、すべての範囲で利用されます。
- 最初のシャッタースピードに応じて、ブラケティング範囲を制限することがあります。絞り値を固定した場合の例
  - 測定されたシャッタースピード$^1/_{1000}$秒、5コマ撮影/2EVステップでのブラケティング撮影では、2EVでの撮影で$^1/_{6000}$秒が要求されるため、シャッタースピードは$^1/_{4000}$秒に制限されます。
  - 測定されたシャッタースピード$^1/_{125}$秒、5コマ撮影/2EVステップでのブラケティング撮影では、2EVでの撮影でも$^1/_{2000}$秒が可能なため、シャッタースピードは制限されません。
  - 測定されたシャッタースピード$^1/_{1000}$秒、7コマ撮影/1EVステップでのブラケティング撮影では、3EVでの撮影で$^1/_{8000}$秒が要求されるため、シャッタースピードは$^1/_{4000}$秒に制限されます。
  - 測定されたシャッタースピード$^1/_{500}$秒、7コマ撮影/1EVステップでのブラケティング撮影では、3EVでの撮影でも$^1/_{4000}$秒が可能なため、シャッタースピードは制限されません。

  このようなシャッタースピードの制限に関係なく、必ず規定の枚数が自動的に撮影されますが、利用可能なシャッタースピードの範囲を越えた場合は同じ露出となります。
- 7コマ撮影を設定すると、0.5EVと1EVのステップのみ利用できます。
- ブラケティングは、フラッシュと連動させることはできません。装着されたフラッシュがオンになっていると撮影できません。
- この機能は、メニューでオフにされるまでオンになったままです。オフにされない場合には、シャッターレリーズボタンを操作するたびに、ブラケティング撮影が繰り返されます。

自動連続露出を設定する

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**ブラケティング**］（4.2.5）を選び、この機能のオン/オフを設定します。
2. メインメニュー（14、31ページ）で［**ブラケティング設定**］を選びます（4.1.9）。
3. サブメニューで［**枚数**］、［**撮影順序**］、［**露出ステップ**］を選びます。
4. それぞれのサブメニューで値、バリエーションを選びます。

マニュアルによる露出設定

露出をすべてマニュアルで設定するには、シャッタースピードダイヤル（1.17）に刻まれたシャッタースピードのひとつあるいは、2つのシャッタースピードの中間にダイヤルをセットします。

次に：

1. 露出計のスイッチをONにします。
2. シャッタースピードダイヤルとレンズの絞りリング（1.14）、またはそのいずれか一方を、丸いLEDだけが点灯するまで、三角LEDが指示する方向に回してください。

露出バランスの3点LEDは、適正露出を得るために必要なシャッタースピードダイヤルとレンズの絞りリングの回転方向の他に、次のとおり、露出アンダー、適正露出、露出オーバーも表示します：

- ▶ 1段以上露出アンダー：レンズの絞りリングを時計方向に回します。
- ▶• $^1/_2$段露出アンダー：レンズの絞りリングを時計方向に回します。
- • 適正露出
- •◀ $^1/_2$段露出オーバー：レンズの絞りリングを反時計方向に回します。
- ◀ 1段以上露出オーバー：レンズの絞りリングを反時計方向に回します。

メモ

シャッタースピードが2秒を上回る場合、シャッターをレリーズすると、ファインダー内のディスプレイには残り時間（秒数）がカウントされます。

バルブ撮影/Tモード

シャッタースピードダイヤルを「B」にセットすると、シャッターレリーズボタンを押し続けている間はシャッターが開いた状態になり、バルブ撮影を行うことができます。露光時間は最大240秒です。

セルフタイマー（69ページ）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。これをTモードといいます。

Tモードでは、シャッタースピードダイヤルを「B」にセットしてから、シャッターレリーズボタンを押してセルフタイマーを作動させると、設定した時間が経過した後に自動的にシャッターが開いた状態になります。シャッターは、シャッターレリーズボタンをもう一度押すまで開いた状態になります。シャッターボタンを押し続ける必要がないので、長時間の露光でもブレを抑えて撮影することができます。

バルブ撮影時とTモード時は、露出計は機能しませんが、ファインダー内のディスプレイには露光経過時間が1秒単位でカウントされます。

メモ

- 露光時間が長くなると、ノイズが目立つことがあります。
- ライカM9では、このようなノイズを軽減するために、遅いシャッタースピード（約$^1/_{30}$秒以下、その他の設定内容により異なります）で撮影したときは、撮影直後に自動的に“ブラックピクチャー”（シャッターを閉じた状態でノイズだけを撮影した画像）を再撮影し、本来の画像の上にノイズ画像を重ね、デジタル処理で減算することによりノイズを除去します。
- 長時間露光では、このように“露光”を2度行うため、通常より長く時間がかかります。この機能が動作している間は、ライカM9の電源を切らないでください。
- 2秒以下の遅いシャッタースピードで撮影した場合は、液晶モニターに「**ノイズリダクション××s（秒）**」というメッセージが表示されます。

スナップショットプロファイル使用時の露出設定

ライカM9は、個別に設定・登録が可能なプロファイルとは別にスナップショットプロファイルがあらかじめ登録されています。スナップショットプロファイルでは、メインメニューや撮影情報メニューが、多くのシーンで最適な撮影ができるようにあらかじめ初期設定され固定されています。したがって特別な調整に必要なメニュー項目とその他の特別機能は、ここでは選ぶことはできません（14ページ）。

モードを設定する

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**プロファイル設定**］（4.2.6）を選びます。
2. サブメニューで［**スナップショット**］を選びます。

ファインダー内のLED表示では、適正露出になるかどうかや、カメラブレが生じないかどうかを確認できます。

– 中央の円のLEDだけが赤く点灯しているとき(•)は、適正露出になり、ブレも生じません。
– 中央の円のLEDが赤く点灯し、右の三角形のLEDが赤く点滅しているとき(•◀)は、極端に明るいためにライカM9で自動設定されるシャッタースピードの範囲では対応できず、露出オーバーになるおそれがあります。
  - 絞り優先AEモード（48ページ）ではこのような表示のときは、ほとんどの場合、絞り値を大きくすることで適正露出が得られます。点滅している三角形のLEDが示す方向どおりに、絞りリング（1.14）を左に回してください。
  - マニュアル露出設定の場合（52ページ）は、状況によりシャッタースピードをより早いスピードに設定することも可能です。
– 中央の円のLEDが赤く点灯し、左の三角形のLEDが赤く点滅しているとき(▶•)は、カメラブレが生じるおそれがあります。
  - 絞り優先AEモード（48ページ）ではこのような表示のときは、ほとんどの場合、絞り値を小さくすることでブレを抑えることができます。点滅している三角形のLEDが示す方向どおりに、絞りリング（1.14）を右に回してください。
  - マニュアル露出設定の場合（52ページ）は、状況によりシャッタースピードをより遅いスピードに設定することも可能です。

スナップショットプロファイルをオフにする

スナップショットプロファイルがオンになっている場合、**SET**ボタンの動作によりいつでもこれをオフにすることができます。

解説

一般に、手持ち撮影でブレないシャッタースピードの限界は、「使用レンズの焦点距離分の1秒」とされています。例えば50mmレンズならば、$^1/_{60}$秒となります。

メモ

- 特に明るい領域でもスナップショットプロファイルで撮影できるようになっていますが、暗い場所での撮影ではISO感度も自動的に高めに設定されます（詳しくは「ISO感度」、40ページ）。
- スナップショットプロファイルでは、フラッシュユニットを使った撮影も可能です。詳しくは「フラッシュを使って撮影する」（55ページ～）をご覧ください。

露出計の測光範囲

室温、標準的な湿度で測光範囲はISO160/23°の場合、EV0〜EV20、つまりf1で1.2秒〜f32で1/1000秒に相当します。

測光範囲を上回る場合および下回る場合

マニュアル設定中に、輝度が露出計の測光範囲を下回ると、警告として左側の三角形のLEDが点滅します。絞り優先AEモードでは、シャッタースピードは表示されつづけますが、適正露出に必要なシャッタースピードが、最低速の32秒を下回った場合あるいは最高速の1/4000秒を上回った場合は、シャッタースピード表示もまた点滅します。同様にレンズを絞り込んだ場合でも同じ状態になることがあります。光のレベルが測光範囲を下回っている場合でも、指をシャッターレリーズボタンから離した後、約12秒間露出計は作動します。この間に、構図を変えるか、絞りを開くなどして、光のレベルを上昇させれば、LEDは点滅を止めて点灯に変わります。

フラッシュを使って撮影する

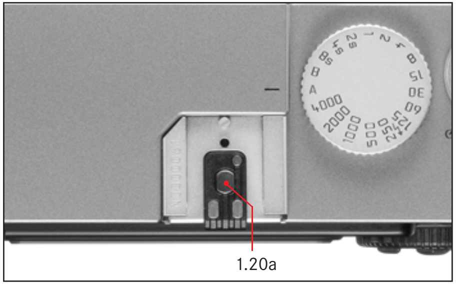


フラッシュ撮影では、実際の撮影の前に一瞬だけ光を放つプレ発光を行い、撮影に必要な発光量を測定します。その直後に、実際の撮影と同時にメイン発光を行います。
フィルター使用や絞り値の変更などの撮影に影響を与える諸条件は、すべて自動的に考慮されます。

対応フラッシュユニット

次の2種類のフラッシュユニットをライカM9に装着した場合は、本取扱説明書に記載されているフラッシュ機能のすべてを使用することができます。

- ライカSF 58（コード番号14488）：ガイドナンバー58（105mm設定のとき）の自動制御式ズームリフレクター（6ビットコード付Mレンズ使用時、22ページ）に加えてサブリフレクターを内蔵した、多機能なライカのシステムカメラ専用のフラッシュユニットです。データや設定を自動転送する制御端子と信号端子が取り付け脚に一体化されるなど、大変使いやすいものとなっています。
- ライカSF 24D（コード番号14444）：コンパクトなサイズとデザインがライカM9にマッチしています。SF 58と同様に、すべての端子が取り付け脚に一体化されており、シンプルな操作性も特徴的です。
- システムカメラアダプテーション（SCA）3000の条件を満たすフラッシュユニットとSCA-3501/35021アダプター：ガイドナンバー制御による調光を行うことができます。



また、標準の取り付けシューを持ったフラッシュユニットであれば、ライカM9に取り付けて、中央シンクロ接点（×接点、1.20a）により発光させることができます。最新のサイリスタ制御式電子フラッシュユニットのご使用をお勧めします。

[1] SCA-3502アダプター（バージョン4以降）を使用する場合は、自然な色合いで撮影するためのホワイトバランス（28ページ）を自動調整の［オート］に設定できます。スナップショットプロファイルでは、ホワイトバランスは［オート］に固定されます。

[2] ライカM9の特殊機能とは互換性のないフラッシュユニットを使用する場合はホワイトバランスの自動調整はできません。「ϟ」に設定してください（28ページ）。また、スナップショットプロファイルでの使用は、ホワイトバランスが［オート］に固定されてしまい、自然な色合いにはなりませんので、おすすめできません。

[3] レンズで設定した絞り値は、かならず手動で入力してください。

フラッシュユニットの取付け



ライカM9のホットシュー（1.20）にフラッシュユニットを取り付ける場合は、必ずフラッシュのベース部を完全に挿入し、固定機能がある場合は、それで確実に固定してください。これは、コントロールピンおよび信号ピンがある場合には特に重要になります。ベース部でフラッシュがぐらつくと、コンタクトが破損し、結果的には故障する場合があるからです。

メモ

フラッシュを取り付ける前には、カメラとフラッシュのスイッチを必ずOFFにしておいてください。

フラッシュモード

ライカSF58かライカSF24Dを使用すれば、ライカM9により、すべて自動制御されたフラッシュ撮影が可能です。この自動制御機能は、絞り優先AEモード、マニュアルモードとスナップショットプロファイルのすべてで使うことができます。

また、日中シンクロ時の発光量も、どの露出モードでも自動制御されます。フラッシュ光と自然光のバランスをとるために、自然光の明るさに応じて発光量を最大で1 $^{2}/_{3}$EVまで自動的に減らします。

絞り優先AEモードでは、フラッシュ同調速度の$^{1}/_{180}$秒でも露出オーバーになってしまうほど自然光が明るい場合は、フラッシュが発光されません。

その場合は、シャッタースピードが自然光に応じて自動設定され、ファインダー内に表示されます。

さらに、絞り優先AEモードとマニュアルモードでは、後幕シンクロやフラッシュ同調速度の$^{1}/_{180}$秒よりも遅いシャッタースピードでの撮影など、芸術性の高いテクニックを使うこともできます。これらのテクニックはライカM9のメインメニューで設定します（詳しくは各項目をご覧ください）。

フラッシュユニットには、ライカM9で設定したISO感度も送信されます。ISO感度とともにレンズで手動設定した絞り値が送信されると、フラッシュユニットがそれらの値に応じて発光量を自動制御します。

ISO感度をフラッシュユニットで変更することはできません。

メモ

- 本ページ以降で説明するフラッシュの特殊機能は、ライカM9と互換性のあるライカSF58とライカSF24D以外では設定・使用できません。
- カメラ本体で設定した露出補正値（49ページ）は、自然光の測光にのみ有効です。自然光での露出補正はカメラ本体で、フラッシュ撮影時のフラッシュ光量でのTTL調光補正はフラッシュユニットで、それぞれ別々に行ってください。
- フラッシュユニット（特にライカM9の特殊機能と互換性のないもの）の使用方法やフラッシュ機能については、各フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

カメラによる発光量の自動制御

カメラによる発光量の自動制御機能を使うには、フラッシュユニットを装着して電源を入れ、GNC（ガイドナンバーコントロール）モードを選んでから、カメラ本体で次の手順を行います。

1. 撮影ごとに、まずシャッターレリーズボタンを最初の作動ポイントまで軽く押し下げて露出計をオンにし、シャッタースピードまたは露出状況をファインダー内に表示します。シャッターレリーズボタンを一気に全押ししてしまうと、フラッシュ発光が必要な状況でも発光されません。
2. シャッタースピードダイヤルを「A」、「⚡」（1/180秒）のいずれかにセットします。長時間露光による特殊効果を使用するときは「B」にします。絞り優先AEモードにすると、シャッタースピードがフラッシュ同調速度に自動的に設定されるか、［**スローシンクロ**］での設定値に応じて自動的に設定されます（オートスローシンクロ/自動設定されるシャッタースピードの範囲」、59ページ）。
3. 希望の絞り値または被写体までの距離に応じた絞り値を設定します。

メモ

自動設定されたシャッタースピード（「フラッシュの特殊機能」、56ページ）または手動設定したシャッタースピードが1/180秒より早い場合は、フラッシュが発光されません。

フラッシュ使用時のファインダー内表示（ライカM9の特殊機能と互換性のあるフラッシュユニット使用時）

ライカM9の特殊機能と互換性のあるフラッシュユニットを使用するときは、フラッシュマークLED（2.1.3）がファインダー内で点灯し、フラッシュの状態が表示されます。このLEDは、自然光を用いた測光に関するそれぞれの章で説明する各表示とともに表れます。

オートフラッシュモード時の表示
(フラッシュユニットをGNCモードに設定したときの表示)

- フラッシュユニットのスイッチを入れ、充電が完了したにもかかわらず、⚡が表示されない。
  カメラには$^1/_{180}$秒よりも速いシャッタースピードがマニュアルでセットされている。このような場合、ライカM9では、フラッシュユニットのスイッチを入れ、充電が完了していても、フラッシュは発光しません。
- シャッターをレリーズする前に、⚡が（1秒間では2回の割合で）ゆっくり点滅する：
  フラッシュユニットは充電中です。
- シャッターをレリーズする前に、⚡が点灯を続ける：
  フラッシュユニットは充電が完了しており、発光できます。
- シャッターをレリーズした後に⚡が点灯を続ける。残りのディスプレイは点灯していない：
  フラッシュ測光は適正でした。フラッシュユニットは引き続き発光可能です。
- シャッターをレリーズした後に⚡が（1秒間で4回の割合で）早く点滅する。残りのディスプレイは点灯していない：
  フラッシュ測光は適正でした。フラッシュユニットは充電中です。
- シャッターをレリーズした後に、⚡が残りのディスプレイとともに消灯した：
  露出不足です。例えば、被写体に対する絞りが小さすぎます。フラッシュユニットに出力低減モードがあれば、出力を低下することによって、フラッシュLEDが消灯したとしても、フラッシュユニットを使用することができます。

フラッシュユニットを自動制御モード（A）/
マニュアルモード（M）に設定したときの表示

- フラッシュユニットのスイッチを入れ、充電が完了したにもかかわらず、⚡が表示されない。
  カメラには$^1/_{180}$秒よりも速いシャッタースピードがマニュアルでセットされている。このような場合、ライカM9では、フラッシュユニットのスイッチを入れ、充電が完了していても、フラッシュは発光しません。
- シャッターをレリーズする前に、⚡が（1秒間では2回の割合で）ゆっくり点滅する：
  フラッシュユニットは充電中です。
- シャッターをレリーズする前に、⚡が点灯を続ける：
  フラッシュユニットは充電が完了しており、発光できます。

オートスローシンクロ/自動設定されるシャッタースピードの範囲

フラッシュ撮影ではシャッタースピードが露出に影響を与えることはあまりありませんが（フラッシュの閃光時間はシャッタースピードよりもはるかに短いため）、自然光での撮影ではシャッタースピードと絞り値が露出に大きく影響してきます。

フラッシュ撮影では、設定できる最速のシャッタースピード、すなわちフラッシュ同調速度にシャッタースピードが固定されていると、フラッシュが届かない背景などが全体的に多かれ少なかれ露出アンダーになってしまいます。

ライカM9では、絞り優先AEモードでフラッシュ撮影するときに、自動設定されるシャッタースピードの範囲を選ぶことができます。これにより、発光量を微調整して思いどおりに被写体全体を撮影することができます。シャッタースピードが自動設定される範囲は次の5つから選択できます。

1. **［レンズ依存］**
   使用レンズの焦点距離に基づく数値からフラッシュ同調速度の1/180秒までの範囲で自動的に設定されます*。シャッタースピードの下限は、手持ち撮影でブレずに撮影できる焦点距離分の1というおおまかな法則で算出されます。例えばズミクロンM f2/50mmならば、シャッタースピードの下限は1/60秒となります。
2. **［オフ（1/180s）］**
   フラッシュ同調速度の1/180秒に固定されます。フラッシュを使って動きのある被写体をできるだけシャープに撮影したいときに選びます。
3. ［1/30まで］、4.［1/8まで］、5.［**32sまで**］これらの3つの設定では、フラッシュ同調速度の1/180秒から各速度の範囲で自動的に設定されます。

メモ

- マニュアルモードでは、シャッタースピードをフラッシュ同調速度の1/180秒以下にも設定できます。
- スナップショットプロファイル（14、53ページ）では、6ビットコード付きMレンズまたは6ビットコード付きに改造したMレンズ（22ページ）を装着した場合の同調スピードは、レンズに応じて変化し、6ビットコード付きではないレンズを装着した場合はフラッシュ同調速度の1/180秒に固定されます。

オートスローシンクロを設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**スローシンクロ**］（4.1.17）を選びます。
2. サブメニューで設定内容を選びます。

* 6ビットコード付きMレンズまたは6ビットコード付きに改造したMレンズを装着した場合のみ選択できます（14、36、31ページ）。

フラッシュ発光のタイミング

フラッシュ撮影時の光源は、自然光とフラッシュ光の2つです。フラッシュ光はわずか一瞬光るだけなので、フラッシュ光だけに照らされた主要被写体や、主にフラッシュ光に照らされた部分は、ピントさえ合っていればブレることなく常にきわめてシャープに撮影できます。自然光に照らされている部分や、自ら光を発している背景などの部分は、同じ写真の中でもシャープさが異なって写ります。
これらの部分がどの程度ブレて写るかは、次の2つの要素によって決まります。

1. シャッタースピード、すなわち撮像素子がこれらの部分を光として受け止める時間
2. 撮影中に被写体が動く速さや、カメラ自体が動く速さ

シャッタースピードが遅いほど、または被写体の動きが速いほど、多重露光したかのように被写体とこれらの部分のシャープさが大きく異なって写ります。



露光の始め、すなわち先幕が開き切った直後にフラッシュが発光する通常のフラッシュ撮影では、このような被写体ブレのために写真が不自然になることがあります。上の写真では、オートバイの前方にヘッドライトの光が流れるように写っています。
ライカM9では、通常の先幕シンクロと、露光の終わり、すなわち後幕が閉じる直前に発光する後幕シンクロを選択できます。後幕シンクロを使えば、被写体の動きの最後の瞬間をシャープに写し出すことができます。P60右上の写真では、後幕シンクロにより、動きが自然でダイナミックに写っています。



先幕シンクロと後幕シンクロの選択は、ライカM9での設定やフラッシュでの設定、露出モード、フラッシュモードにかかわらず行うことができます。どのような設定やモードでも、上の写真のような特殊な効果が得られます。

メモ

スナップショットプロファイル（14、53ページ）では、［先幕］に固定されます。

フラッシュ発光のタイミングを設定する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［フラッシュ同調］（4.1.16）を選びます。
2. サブメニューで［先幕］、［後幕］から発光のタイミングを選びます。

ユーザー設定（プロファイル登録）

メインメニュー項目や撮影情報メニュー項目の設定を組み合わせて、［プロファイル］に登録しておくことができます。同じ状況で、あるいは同じ被写体を、同じ設定で素早く簡単に撮影したいときなどに便利です。登録できる［プロファイル］は4つです。この4つのプロファイルの名称は10桁になっています。初期設定では、最初のフォルダが**Profil__1_***、次のフォルダが**Profil__2_***などとなっています。しかしこれらの初期設定での名称は変更することが可能です。例えば使用分野ごとに名称を設定すると、よりわかりやすく、すばやく呼び出すことができます。
その他にも、カメラ任せで簡単に、スナップショットプロファイルを使用することも可能です（14、53ページ）。

* アンダーバー「 _ 」はここではスペースのために使われ、液晶モニターでは空白スペースになります。

設定内容を組み合わせてプロファイルに登録する

1. メインメニューや撮影情報メニューで、登録したい項目の設定を行います。
2. メインメニュー（14、31ページ）で［**ユーザー設定**］（4.1.2）を選びます。
3. サブメニューで［**プロファイル1からプロファイル4**］の中から一つを選択します。
   - プロファイル名が表示されます。最初の位置は、作業のために既に決定されています。最初は1番最初の文字が変更可能な状態となっています。
4. 十字キー（1.30）の上下を押し、もしくはメイン設定リング（1.29）で文字を変更します。そして十字キーの左右を押して位置を移動します。
   - 文字では大文字のAからZまで、小文字のaからzまで、数字の0から9までが使用できます。それらは順番にエンドレスで並んでいます。
5. **SET**ボタン（1.21）を押して設定を登録します。

登録したプロファイルを呼び出す

1. 撮影情報メニュー（15、31ページ）で［**プロファイル**］（4.2.6）を選びます。
2. サブメニューで呼び出したい［**プロファイル**］を選びます。

メモ

- 呼び出した［プロファイル］の設定を変更すると、その［プロファイル］は無効となり、呼び出せなくなります。
- スナップショットプロファイルがオンになっている場合、**SET**ボタン（1.21）の動作によりいつでもこれをオフにすることができます。

設定リセット

メインメニューと撮影情報メニューの設定すべてを一度にリセットし、お買い上げ時の状態に戻します。

設定をリセットする

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**設定リセット**］（4.1.20）を選びます。
2. **SET**ボタン（1.21）を押してサブメニューを表示します。
3. 十字キー（1.30）の右/左のキーで設定内容を選びます。
4. **SET**ボタンを押して実行します。

メモ

［ユーザー設定］（4.1.2、本ページ）で登録した各［**プロファイル**］の設定もすべてリセットされます。

再生モード

撮影した画像を液晶モニター（1.32）で再生することができます（「撮影モード/再生モードを選ぶ」、25ページ）。オートレビューモードを選ぶと、撮影直後に画像を自動的に数秒間表示できます。PLAYモードを選ぶと、いつでも時間の制限なく画像を再生できます。再生モードでは、さまざまな表示機能を選択できます。

メモ

- 再生機能はいつも、使用されるメモリーカードの中のアクティブなフォルダにアクセスします。他のフォルダに収納された画像を見たいときには、該当するフォルダをアクティブにしてください（69ページ）。
- メモリーカードに画像が何も記録されていない場合にPLAYボタンを押すと、注意： フォルダーLEICAに再生可能な画像がありません というメッセージが液晶モニターに表示されます。
- PLAYボタンは、押す前の液晶モニターの表示により、押した後に切り換わる表示が異なります。

	押す前の表示	押した後の表示
a.	全体表示	撮影モード、液晶モニターに表示はなし
b.	拡大表示/縮小画像の複数表示（63ページの次項のB.をご覧ください）	全体表示
c.	拡大表示とINFOボタンによる撮影情報表示（15、63ページ）	全体表示とINFOボタンによる撮影情報表示
d.	メインメニューまたは撮影情報メニュー画面（14ページ）/DELETEボタンまたはPROTECTボタンを押して設定中の画面（65、66ページ）	最後に表示されていた画像の全体表示

- ライカM9はDCF（Design Rule for Camera File System）に対応しています。
- ライカM9では、DCF対応の機種で撮影した画像のみ再生できます。

再生モードの表示機能

A. 表示画像の切り換え/画像の送りと戻し

撮影した画像を切り換えて表示することができます。十字キー（1.30）の左のキーを押すと小さい番号の画像に、右のキーを押すと大きい番号の画像に切り換わります。キーを約2秒間押し続けると、画像を早送り/早戻しできます。最大番号の画像の次は最小番号の画像に戻り、最小番号の画像の次は最大番号の画像に戻るので、どちらの番号の方向に切り換えてもすべての画像が表示されます。

• 液晶モニターに表示される画像番号とフォルダ番号も、画像の切り換えに応じて変わります。



B. 拡大表示と表示位置の移動/縮小画像の複数表示

画像を拡大したり、拡大表示する位置を自由に移動させたりすることができます。また、最大9枚の画像を縮小して同時に表示することもできます。拡大表示は画像を入念にチェックしたいときなどに、複数表示はたくさんの画像を一覧したり、探している画像を素早く見つけたりしたいときに便利です。

メモ

• 拡大率が高くなるほど、表示画素数が少なくなるために画像が粗くなります。

• 拡大表示時は、十字キーで画像を切り換えることはできません。十字キーは表示位置を移動するために使います。拡大表示時の画像の切り換えかたについては、次のページの最初のメモをご覧ください。

メイン設定リング（1.29）を右（時計方向）に回すと、画像の中央部が拡大表示されます。右に回すほど拡大率が大きくなり、表示範囲が小さくなります。最大で1:1、すなわち液晶モニターの1画素が表示されている画像の1画素を表示するまで拡大できます。

十字キー（1.30）を使うと、表示位置を移動させることができます。表示したい位置と同じ方向のキーを押して移動させてください。

• 現在の表示の倍率と位置も、液晶モニターの右下に表示される枠内の四角形（3.2.5、3.3.7 j）で確認できます。





メモ

PLAYボタン（1.26）を押しながら十字キーの右/左のキーを押すと、拡大表示されている画像から他の画像に切り換えることができます。切り換わった画像も前の画像と同じ拡大率で拡大表示されます。

画像が全体表示されているときにメイン設定リングを左（反時計方向）に回すと、液晶モニターに画像が4枚同時に縮小表示されます。さらに左に回すと、9枚同時に縮小表示されます。

- 液晶モニター（1.32）に同時に縮小表示される枚数は最大9枚です。この中には複数表示の前に全体表示されていた画像が含まれ、赤い枠でハイライト表示されます。

全体表示に切り換えるには、十字キーで赤い枠を移動させて全体表示したい画像をハイライト表示してから、メイン設定リングを右に回します。

メモ

9枚表示時にメイン設定リングをさらに左に回すと、9枚全体が赤い枠でハイライト表示され、9枚セットで画像表示の送り/戻しができます。

C. 画像削除

液晶モニターで再生されている画像を削除することができます。画像を別の記録メディアに保存した後や画像が不要になった場合、あるいはメモリーカードの空き容量を増やしたいときなどに便利です。
1枚ずつ削除するだけでなく、すべての画像を一度に削除することもできます。

メモ

- 再生モードで全体表示または複数表示しているときのみ、画像を削除できます。ただし、9枚表示時に9枚すべてが赤い枠でハイライト表示されている場合(63ページ)は削除できません。
- プロテクトされている画像を削除するには、プロテクトを解除してください(「次のページの「D. 画像プロテクト/プロテクト解除」をご覧ください)。

重要

一度削除した画像は元に戻せません。

画像を削除する

1. DELETEボタン(1.24)を押します。
   - 液晶モニター(1.32)にサブメニューが表示されます。



メモ

- DELETEボタンをもう一度押すと、いつでも削除操作を中止できます。
- 削除操作中はMENUボタン(1.28)、INFOボタン(1.22)、消去プロテクト機能は機能しません。

2. 次の2つから削除方法を選びます。
   - 削除 1枚 : 1枚ずつ削除します。
   - 削除 全画像 : すべての画像を削除します。

3. 以降の操作は、「メニュー設定」(31ページ)での説明と同様に、メニュー項目に従ってシャッタースピードダイヤル(1.29)、十字キー(1.30)、SETボタン(1.21)を使って行ってください。

メモ

表示されている画像がプロテクトされている(66ページ)場合は、1枚 削除を選択することはできません。
全画像削除を選択した際は、誤って削除してしまうのを防ぐために、カード全体の画像を削除してもよいかを確認するサブメニューが表示されます。

画像削除後の液晶モニターの表示

1枚削除後

削除した画像の前の番号の画像が表示されます。

メモリーカードに画像が何も記録されていない場合は、注意： フォルダ–LEICAに再生可能な画像がありません というメッセージが表示されます。

全画像削除後

注意： フォルダーLEICAに再生可能な画像がありません

というメッセージが表示されます。

プロテクトされている画像があるときは、最小番号の画像が表示されます。

メモ

画像を削除すると、画像番号/総画像数（3.2.4/3.3.6）に表示される残りの画像の番号が変更されます。例えば、3番の画像を削除すると、4番だった画像が3番になり、5番だった画像が4番になります。メモリーカードのフォルダ（3.3.7 i）内のファイル番号（INFOボタンで表示されるその他の撮影情報内の表示、12ページ）は変更されません。

D. 画像プロテクト/プロテクト解除

メモリーカードに記録されている画像を誤って削除することがないようにプロテクト（保護）することができます。プロテクトはいつでも解除できます。

メモ

- 再生モードで全体表示または複数表示しているときのみ、画像をプロテクト/プロテクト解除することができます。ただし、9枚表示時に9枚すべてが赤い枠でハイライト表示されている場合（63ページ）はプロテクト/プロテクト解除できません。
- プロテクトされている画像と画像削除の関係については、「C. 画像削除」をご覧ください。
- プロテクトされている画像を削除するには、本ページの手順に従ってプロテクトを解除してください。
- ライカM9で行ったプロテクトは、ライカM9でのみ有効です。
- メモリーカードを初期化すると、プロテクトされている画像も消去されます（「メモリーカードの初期化」、69ページ）。
- メモリーカードにも、画像を誤って削除することがないようにプロテクト機能が装備されています。メモリーカードで画像をプロテクトするには、書き込み防止スイッチを「LOCK」の方向にスライドさせてください（21ページ）。

画像をプロテクトする/プロテクトを解除する

1. SETボタン（1.21）を押します。
   - 液晶モニター（1.32）にサブメニューが表示されます。



メモ

- PLAYボタン（1.26）を押して通常の再生モードに戻す、あるいはシャッターレリーズボタン（1.19）を押して撮影モードに切り換えることでいつでも次のいずれかの方法で画像プロテクト/プロテクト解除の操作を中止することができます。
- 画像プロテクト/プロテクト解除の操作中はMENUボタン（1.28）、DELETEボタン（1.24）、INFOボタン（1.22）を押しても機能しません。

以降の操作は、「メニュー設定」（31ページ）での説明と同様に、メニュー項目に従ってシャッタースピードダイヤル（1.29）、十字キー（1.30）、SETボタン（1.21）を使って行ってください。

2. 次の4つから画像プロテクト/プロテクト解除の方法を選びます。
   - プロテクト 1枚 ：1枚ずつプロテクトします。
   - プロテクト 全画像 ：すべての画像をプロテクトします。
   - プロテクト解除 1枚 ：1枚ずつプロテクトを解除します。
   - プロテクト解除 全画像 ：すべての画像のプロテクトを解除します。

メモ

次の操作は行えません（メニュー項目が白黒反転で表示され、選択できません）。

- プロテクトされている画像のプロテクト、およびすべての画像がプロテクトされている場合のプロテクト
- プロテクトされていない画像のプロテクト解除、およびプロテクトされている画像がない場合のプロテクト解除

画像プロテクト/プロテクト解除後の液晶モニターの表示

メニューを終了すると、設定前の画像表示に戻ります。プロテクトされた画像には 🔑（3.2.1/3.3.3）が表示されます。

メモ

すでにプロテクトされている画像を再生しても 🔑 が表示されます。

フォルダ管理

カード内の画像データは、自動生成されたフォルダに収納されます。フォルダ名は原則として8桁（3つの数字と5つの文字）で構成されます。初期設定では、最初のフォルダが100LEICA、第2のフォルダが101LEICAなどとなっています。それにより、カメラは最大で999のフォルダを設定できることになります。この番号設定はいつでもリセットすることができます。
その他にライカM9では、次の方法により新しいフォルダを設定し、その名前を確定することができます。
– フォルダ番号をリセットする
– フォルダを新たに作る/名称を自分で確定する

フォルダ番号をリセットする

メモ

この機能は画像データも空のフォルダも入っていないメモリーカードで可能です。つまりまだ使われていない新しいカード、もしくは予め初期化されたカードで可能ということです（70ページ）。

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**フォルダ操作**］（4.1.13）を選びます。
2. サブメニューで［**番号リセット**］を選びます。
   これによりカメラ内部のフォルダの番号付けはリセットされ新たなフォルダを設定するといつも最も若い、まだ使われていない番号が使用されます。

メモ

この結果、ときには1つないし複数の番号が使われないことがあります。例えばカメラが最後に102という番号を設定しており、そこに最も大きなフォルダ番号として105を使っているカードがカメラに装着されると、次に設定される新しいフォルダの番号は106からということになります。

フォルダを選択する

再生機能（25、62ページ）とPTPプロトコルによるデータ転送（70ページ）は必ず、そのとき使用されているカードでアクティブなフォルダにアクセスします。他のフォルダに収納された画像を見たいとき、もしくは外部の記録媒体に画像を転送したいときは、該当するフォルダをアクティブにしてください。
それには、

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**フォルダ操作**］（4.1.13）を選びます。
2. サブメニューで［フォルダ選択］を選びます。
   • 液晶モニター（1.32）に存在するすべてのフォルダが記載されたリストが表示されます。 そのカードに大量のデータが存在する場合、この表示が行われるまで少し時間がかかります。表示が行われるのを待つ間、 フォルダー情報読み込み中。しばらくお待ちください。 というメッセージが一時的に表示されます。
3. リストの中から特定のフォルダを選びます。

フォルダを新規作成する/名称を自分で確定する

ライカM9は以下の方法でメモリーカードに新しいフォルダを新規作成して、名前を付けることが可能です。

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**フォルダ操作**］（4.1.13）を選びます。
2. サブメニューで［**新規作成**］を選びます。
   • フォルダ名が表示されます（最初はいつも「LEICA」です）。5つの文字の最初の文字が、変更可能な状態で表示されています。

メモ

フォルダ名には、まだ使われていない最も若い番号が与えられるようになっています。

3. 十字キー（1.30）の上下を押し、もしくはメイン設定リング（1.29）で最初の文字を変更します。そして十字キーの左右を押して位置を次の文字へ移動します。文字では大文字のAからZまで、小文字のaからzまで、数字の0から9までが使用できます。それらは順番にエンドレスで並んでいます。

メモリーカードの初期化

通常は使用中のメモリーカードを初期化する必要はありませんが、初期化されていないメモリーカードを初めて使うときには、初期化が必要になります。その場合は、[フォーマット] というサブメニューが自動的に表示されます。
ライカM9では、メモリーカードをフォーマットするための初期化と、カードの誤用や濫用防止などの目的から、カードにある全データを完全に（上書きにより）削除することが可能な上書きを選択することができます。

メモ

- 単純な初期化では、カードに保存されていたデータは完全には削除されません。削除されるのはインデックスだけです。そこにあったファイルにはもう直接アクセスすることができませんが、ある種のソフトウェアを使用することで、そのデータへのアクセスが再度可能になります。

  新しいデータを上書きされてしまったデータだけが事実上の完全な削除となります。

  しかし大切なデータはすべて、パソコンのハードディスクなど、確実に保存できる大容量記憶装置にできるだけ早めに取り込むようにしてください。
- ご使用のメモリカードによっては初期化に2分程度要する場合もあります。

メモリーカードを初期化する

1. メインメニュー（14、31ページ）で［**フォーマット**］（4.1.27）を選びます。
2. サブメニューで［**はい**］、［**いいえ**］、［**上書き**］を選びます。
3. メモリーカードに上書きを選択した場合は、続いてサブメニューで確定する必要があります。これは、誤った操作を防止するための手続きです。

メモ

- 初期化中はライカM9の電源を切らないでください。
- パソコンなどの他の機器で初期化したメモリーカードは、ライカM9で初期化し直してください。
- 初期化できない場合は、お買い上げの販売店またはライカインフォメーションサービス（89ページ）までお問い合わせください。
- 初期化すると、プロテクトされている画像（前項もご覧ください）も削除されます。
- カードの容量、書き込み/読み出し速度に応じて、上書きに最長60分ほどの時間が必要になります。そのため事前にバッテリーの充電状態（18ページ）を確認し、作業に十分かどうかを検討してください。上書き中にバッテリー容量が限界に達した場合には、それを警告するメッセージが液晶モニターに表示されます（18ページ）。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを2秒または12秒に設定して撮影することができます。2秒に設定すれば、シャッターレリーズボタンを押すときの手ブレで写真が不鮮明になるのを防ぐことができます。12秒に設定すれば、グループ撮影時に自分も一緒に写ることができます。セルフタイマーを使って撮影するときは、三脚の使用をおすすめします。

セルフタイマーを使って撮影する

1. メインスイッチ（1.18）を「**⏻**」にします。
2. メインメニュー（14、31ページ）で［**セルフタイマー**］（5.1.3）を選び、サブメニューで設定時間を選びます。
3. サブメニューでシャッターが切られるまでの時間を選びます。
4. シャッターレリーズボタン（1.19）を最初の作動ポイントまで押し込み（26ページ）、セルフタイマーを作動させます。
   - 12秒に設定したときは、正面のセルフタイマーLED（1.7）がカウントダウンを表示します。最初の10秒間は点滅し、その後点灯に変わります。液晶モニターでもカウントダウンを確認できます。

セルフタイマー作動中に**SET**ボタン（1.21）を押すと、セルフタイマーが止まります。シャッターレリーズボタンに触ると、セルフタイマーがもう一度作動し始めます。
セルフタイマー作動中に、オフにする場合はメインスイッチ（1.18）をS.CまたはOFFにします。

重要

セルフタイマー撮影時の露出は、シャッターレリーズボタンを最初の作動ポイントまで押し込んだときではなく、撮影直前に決定されます。

パソコンへの画像の取り込み

ライカM9とパソコンを接続して、パソコンに画像を取り込むことができます。ライカM9は次のOSに対応しています。
Microsoft ®：Windows® XP/Windows® Vista ®
Apple® Macintosh®：Mac® OS X®（v10.5）
ライカM9では、パソコンに画像を取り込むインターフェースとして、USB 2.0に対応しています。USB2.0に対応したパソコンに画像を高速転送することができます。画像を取り込むには、USBポートを装備したパソコン（ライカM9と直接接続する場合）またはSD/SDHCカードリーダーが必要です。

ヒント

1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続したり、USBハブやUSB延長ケーブルを使って接続したりすると、正常に動作しないことがあります。

USB接続

ライカM9はUSBケーブルを経由して二種類の方式でデータを転送することができます。これは画像データ転送のためのプログラムの中にPTPプロトコルによる接続を要求するものがあることを考慮しています。
さらにカメラを外付けのディスク（「大容量記憶装置」）のように作動させることもできます。

USB接続を設定する

1. メインメニュー（13、30ページ）で［**USB接続**］（4.1.26）を選びます。
2. サブメニューで**PTP**またはマスストレージを選びます。

PTPプロトコルによる接続とデータの転送

ライカM9をPTPに設定し、接続されたパソコンがライカM9を認識した後、以下の手順に従ってください。

メモ

PTPプロトコルによるデータ転送はいつも、使用されるメモリーカードの中のアクティブなフォルダにアクセスします。他のフォルダに収納された画像を見たいとき、もしくは外部の記録媒体に画像を転送したいとき、該当するフォルダをアクティブにしてください（64ページ）。

Windows® XP/Vista ®をお使いの場合

1. ライカM9のUSB端子カバー（1.25）を開けて、miniUSB端子（1.33）に付属のUSB接続ケーブル（C）を差し込みます。パソコンのUSB端子にもUSB接続ケーブルを差し込み、ライカM9とパソコンを接続します。

Windows® XPをお使いの場合

- パソコンの画面に「新しいハードウェアが見つかりました」というメッセージが表示されます（初回接続時のみ）。

2. メッセージをダブルクリックします（初回接続時のみ）。
   - 「M9 Digital Camera」という見出しのプルダウンメニューがデータ送信ウィザードとして表示されます。
3. ［OK］をクリックし、ウィザードの指示に従って希望のフォルダに通常の手順で画像をコピーします。

Windows® Vista ®をお使いの場合

- パソコンのタスクバーの上にドライバのインストールを促すメッセージが表示されます。また、ライカM9の液晶モニターには「USB接続」というメッセージが表示されます。インストールが完了すると、完了のメッセージが表示され、さまざまなオプションを含んだ［自動再生］ダイアログボックスが表示されます。

2. ［画像の取り込み］または［フォルダを開いてファイルを表示］をクリックします。［フォルダを開いてファイルを表示］をクリックすると、Windows ®エクスプローラでメモリーカードのフォルダを表示して画像を取り込むことができます。

Mac® OS X（10.5）と接続して画像を取り込む

1. ライカM9のUSB端子カバー（1.25）を開けて、miniUSB端子（1.33）に付属のUSB接続ケーブル（C）を差し込みます。パソコンのUSB端子にもUSB接続ケーブルを差し込み、ライカM9とパソコンを接続します。
   - ライカM9の液晶モニターに「**USB接続**」というメッセージが表示されます。
2. 「Finder」ウインドウを開きます。
3. サイドバーにある［場所］をダブルクリックして［アプリケーション］をダブルクリックします。
4. 「イメージキャプチャ」をダブルクリックします。
   - 「イメージキャプチャ」が起動し、「M9Digital Camera」というタイトルバーの画面が表示されます。
5. 取り込みたい画像を選んで［取り込む］をクリックします。

カメラを外付けディスク（大容量記憶装置）として接続しデータを転送する

Windows OSをお使いの場合

ライカM9がUSBケーブルでパソコンと接続されている場合、パソコン上でライカM9は外付けディスクとして認識され、ディスク名を割り当てられます。これにより画像データはWindowsエクスプローラーを経由して、パソコンに取り込むことができます。

Mac OSをお使いの場合

ライカM9がUSBケーブルでパソコンと接続されている場合、カメラに装着されているメモリーカードは記録メディアとしてデスクトップに表示されます。Finderを使用して、画像データをパソコンに取り込むことができます。

重要

- 付属のUSB接続ケーブル（C）以外は使用しないでください。
- 画像転送中は絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。ライカM9、パソコン、メモリーカードの故障の原因となります。
- 画像転送中は、カメラの電源を切ったり、カメラからバッテリーを取り出したりしないでください。また、バッテリーが消耗して自動的に電源が切れることのないように注意してください。パソコンの故障の原因となります。画像転送中にバッテリーが消耗した場合は、画像転送を中止してからライカM9の電源を切り（24ページ）、バッテリーを充電してください（18ページ）。

カードリーダーと接続して画像を取り込む

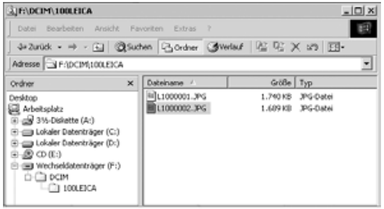
一般的なSD/SDHCカードリーダーを使ってパソコンに画像を取り込むこともできます。USBポートを装備したパソコンならば、USB接続タイプのカードリーダーを使用できます。PCMCIAスロットを装備したパソコンならば（ノートパソコンには標準的に装備されています）、PCMCIAアダプターを使って画像を取り込むこともできます。これらのパソコン周辺機器についての詳細は、周辺機器の販売店までお問い合わせください。

メモ

ライカM9は、画像ごとに横位置撮影か縦位置撮影かを認識するセンサーを搭載しています。画像を転送したパソコンにこの機能に対応するソフトがあれば、パソコンのモニター上で縦位置撮影した画像を縦のまま表示できます。（カメラの液晶モニターでは機能しません。）

メモリーカード内のフォルダ構造

メモリーカードに記録された画像データをパソコンに取り込むと、次の図のようなフォルダ構造になります。



フォルダ名は「100LEICA」、「101LEICA」などと表されます。1つのフォルダには最大9999枚の画像が保存されます。

DNG（RAW）データ

DNG（デジタル・ネガティブ）は、画質の劣化が少ないRAWファイル形式の標準フォーマットです。DNG形式で保存した画像データを、高画質画像に変換するためにAdobe® Photoshop® Lightroom®などのRAW現像ソフトウェアが必要になります。

Adobe® Photoshop® Lightroom®を使うと、デジタル画像のカラー処理に最適なアルゴリズムにより、ノイズを最低限に抑えた高精彩画像に仕上げることができます。また、ホワイトバランスやシャープネスの調整、ノイズ除去、階調補正などの画像処理を行い、最高水準の画質にすることができます。

Adobe® Photoshop® Lightroom®は、ライカM9をLeica Camera AGのホームページに登録すると無償でダウンロードすることができます。

ファームウェアをアップデートする

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能が電子的に制御されており、お買い上げ後でも機能を追加したり不具合を改善したりできることがあります。
機能を追加したり不具合を改善したりするには、ライカM9のファームウェアをアップデートします。ライカのホームページでは、最新のファームウェアを随時提供しています。最新のファームウェアをダウンロードして、ライカM9のファームウェアをアップデートしてください。ファームウェアのアップデートは、次の手順で簡単に行えます。

1. ライカM9でメモリーカードを初期化します。
2. ライカM9の電源を切り、メモリーカードを取り出して、パソコンのメモリーカードスロットに入れます。パソコンにメモリーカードスロットが装備されていない場合は、カードリーダーを使ってください。
3. ライカホームページの「ライカM9」ページ内の右側にある「アップデート」をクリックして、ファームウェアをパソコンにダウンロードします。
4. アップデートファイル「m9-X_xxx.upd」をメモリーカードのルートディレクトリ（ファイル構造の最上層）にコピーします。「xx」にはファームウェアのバージョン番号が表示されます。
5. メモリーカードをカードスロットまたはカードリーダーから抜き、カメラのメモリーカードスロットに入れて底蓋を閉じ、メインスイッチでカメラの電源を入れます。
6. 液晶モニターにバージョンアップ確認のメッセージが表示されます。「はい」を選択します。

アップデートはおよそ3分で完了します。完了後、メインスイッチでカメラの電源を入れ直すようメッセージが表示されます。

7. カメラの電源を入れ直します。

メモ

バッテリー残量が十分でない場合は、警告メッセージが表示されます。

その他

システムアクセサリー

交換レンズ
ライカM型は、シャッターチャンスを逃さない素早い撮影や、被写体にカメラを過度に意識させない撮影に理想的なシステムです。交換式のMレンズには、焦点距離が16～135mm、開放F値が最大でF0.95と、幅広いラインアップがそろっています。

フィルター
現行のMレンズは標準的なフィルターねじを備えており、UVaフィルターとライカ・ユニバーサル偏光フィルターを取り付けることができます。

メモ
LEICA M8およびM8.2専用のライカUV/IRフィルターは、広角レンズで撮影したときに画像の周辺部に色被りが発生することからライカM9では使用できません。

ユニバーサル広角ビューファインダーM
焦点距離が16mm、18mm、21mm、24mm、28mmの超広角レンズを装着したときに、ライカM9のファインダーと同様に各レンズ用のブライトフレームを表示する外部ビューファインダーです。ライカM9を含むデジタル機とアナログ機のどのMカメラでも使用できるので、非常に便利です。パララックス補正機能と、カメラを水平に保つための水準器を装備しています。コード番号12011

ライカビューファインダーM21/24/28mm
ライカビューファインダーM21/24/28mmは、すべてのMカメラで使用でき、調整可能な光学系により焦点距離が21mm、24mm、28mmの一般的な広角レンズでフレーミングすることができます。ライカMシリーズカメラのファインダーに匹敵する高いレベルの光学性能を持ち、15mmのアイレリーフにより眼鏡着用者にも最適なファインダーです。拡大率が非常に高いため、細部にまではっきりと認識することができます。（コード番号12013）。

ライカビューファインダーM
21mmおよび24mmのレンズ用には、それぞれの焦点距離に応じたライカビューファインダーMが使用できます。これらは、非常にコンパクトなデザインと明るいファインダー像が特徴的で、構図の決定には、Mカメラのファインダー同様にブライトフレームが役立ちます（18mm用ブラック：コード番号12 022、シルバー：コード番号12 023/21mm用ブラック：コード番号12024、シルバー：コード番号12025/24mm用ブラック：コード番号12026、シルバー：コード番号12027）。

ビューファインダー・マグニファイアーM 1.25倍/1.4倍
ライカの1.25倍または1.4倍ファインダー・マグニファイアー使用すれば、35mm以上のレンズを使用する際に、構図の決定が驚くほど簡単になります。すべてのM型カメラに使用することができます。ファインダー画像の中央の部分が、次のように拡大されます。ファインダー倍率が0.68倍x 1.25＝0.85倍、または0.68倍x 1.4＝0.95倍になります。紛失防止のためにフック付きの真鍮チェーンが付いており、キャリングストラップ取り付け部につないでおくことができます。
また、ループ付きのレザーケースも付属しています。ケースに収納してループにキャリングストラップを通しておけば、キズや汚れから保護できるだけでなく、必要なときに素早く取り出すことができます。
1.25倍：コード番号12004
1.4倍：コード番号12006

フラッシュユニット

ライカSF 58（コード番号14488）は、ガイドナンバー58（105mm設定のとき）の自動制御式ズームリフレクター（6ビットコード付Mレンズ使用時、22ページ）に加えてサブリフレクターを内蔵した、多機能なライカのシステムカメラ専用のフラッシュユニットです。

データや設定を自動転送する制御端子と信号端子が取り付け脚に一体化されるなど、大変使いやすいものとなっています。

ライカSF 24D（コード番号14444）は、コンパクトなサイズとデザインがライカM9にマッチしています。SF 58と同様に、すべての端子が取り付け脚に一体化されており、シンプルな操作性も特徴的です。

ハンドグリップM（M9用）

ライカM9をしっかり安定させて構えることができるだけでなく、片手で楽に持ち運びできるようにもなる、実用的なアクセサリーです。底蓋を取り外して装着します。

ブラック：コード番号14486

スチールグレー：コード番号14490

視度補正レンズ

ファインダーに視度が良く合うようにオプションとして補正レンズが用意されています。視度は次のものがあります。

±0.5/1/1.5/2/3ディオプター

ケース

ライカM9専用のケースには、装着したレンズの長さに合わせてショートノーズとロングノーズの2種類から選べるネオプレーンケース、レザー製のクラシックな速写ケース、上部を取り外した状態の速写ケースに似たカメラプロテクターがあります。カメラプロテクターを使えば、撮影時でもライカM9をしっかり保護することができます。

ネオプレーンケースM

ショートノーズ：コード番号14867

ロングノーズ：コード番号14868

速写ケースM（M8＆M8.2＆M9用）：コード番号14872

カメラプロテクターM：コード番号14869

また、撮影ツール一式をすべて収納して持ち運べる、防水性のクラシックなビリンガムコンビネーションバッグもあります。カメラ2台とレンズ2本、またはカメラ1台とレンズ3本を収納できます。ハンドグリップM（M9用）を装着したカメラや大型レンズも収納できます。SF 24D フラッシュユニットなどのアクセサリーを収納できる、マジックテープ式のポケットも付いています。

ブラック：コード番号14854

カーキ：コード番号14855

スペア用アクセサリー	コード番号
カメラボディキャップ	14195
キャリングストラップ	14312
充電式リチウムイオンバッテリー	14464
コンパクトチャージャー（ヨーロッパ仕様およびアメリカ仕様の各電源アダプターとカーアダプター付き）	14470
USB接続ケーブル（2m、4ピンまたは6ピン）	420-200.023-000

使用上のご注意とお手入れ

一般的なご注意

- 強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。
- テレビの上や近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 携帯電話の近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- スピーカーや大型モニターなどの強い磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- ラジオ放送施設や高圧電線の近くで使用しないでください。電磁波により画像記録に障害が発生することがあります。
- 電磁波の影響で正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを取り出し、もう一度入れ直してから電源を入れ直してください。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、ペトロリウム・スピリット、シンナー、アルコールは使用しないでください。
- 薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり表面の仕上げがはげたりすることがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触したままにしないでください。
- 砂浜などで使用する場合は、内部に砂やほこりが入り込まないようにしてください。
- 砂やほこりは、ライカM9やメモリーカードの故障の原因となります。レンズ交換やメモリーカードの出し入れの際は特にご注意ください。
- 雪や雨の中で、あるいは砂浜で使用する場合は、内部に水滴が入り込まないようにしてください。水滴がかかると、ライカM9やメモリーカードが正常に動作しなくなるばかりか、修理が不可能になることがあります。
- 海水がかかった場合は、水道水で湿らせてよく絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いた布でよく拭いてください。

液晶モニター

液晶モニターは非常に精密な技術で製造されており、総画素数約23万画素の99.995%以上が有効画素となっていますが、0.005%は黒い点になったり常時点灯したままになったりします。これは故障ではありません。また、これが撮影画像に影響することはありません。

- 寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、液晶モニターに結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- 寒い場所で電源を入れた場合、表示が通常より暗いことがあります。ライカM9が温まるにつれて、明るさは元に戻ります。

センサー（撮像素子）

- 宇宙線の影響により（飛行機内に持ち込んだ場合など）、画素欠けが生じることがあります。

結露

- ライカM9の内部や外部で結露が生じた場合は、電源を切って常温の場所に約1時間置いてください。常温になじんでくると水滴は自然に消えます。

お手入れ

- 汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、常に清潔に保ってください。

カメラ

- ライカM9をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを直接付けてから、乾いた布で拭き取ってください。
- ライカM9やレンズに付着した指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布では拭き取りにくい隅の汚れには、小さなブラシをお使いください。ブラシの柄などでシャッターブレードを傷つけないようにご注意ください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しないときは、これらの部分の動作が鈍くなるのを防ぐために、約3ヶ月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、フレームセレクターなどの操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。レンズの絞りリングやフォーカスリングも定期的に動かしてください。
- レンズマウントの6ビットコード検知センサー（1.10）を傷つけたり汚したりしないようにしてください。また、砂などがマウント部に入り込まないようにご注意ください。マウント部を傷つけるおそれがあります。お手入れの際は、これらの部分を絶対にぬらさないでください。

レンズ

- フロントレンズに付着したほこりは、柔らかいブラシを使って落としてください。汚れがひどいときは、クリーナーなどを何も付けていない柔らかい清潔な布を使って、内側から外側に円を描くようにして丁寧に拭き取ってください。使用する布には、ケースなどに保管されていたマイクロファイバークロスをおすすめします（写真用品や光学機器の専門店で購入できます）。40℃の温水で洗濯できるものが便利です（ただし、柔軟剤の使用やアイロンがけは避けてください）。化学薬品が含まれているガラス拭き用の布は、レンズを傷めることがあるので使用しないでください。
- ボディマウントの6ビットコード（1.11）を傷つけたり汚したりしないようにしてください。また、砂などがマウント部に入り込まないようにご注意ください。マウント部を傷つけるおそれがあります。お手入れの際は、これらの部分を絶対にぬらさないでください。
- 砂や海水がかかるおそれのある場所で撮影する場合は、透明のUVaフィルターを装着するとフロントレンズを保護できます。ただし、その他のフィルターと同様に、逆光での撮影やコントラストが高い被写体の撮影ではフレアが発生することがありますのでご注意ください。さまざまな保護効果があるレンズフードを装着すれば、不用意に指紋を付けたり雨でぬらしたりすることを防げます。

バッテリー

充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。

- ライカM9は、電源を切っても日付などの設定の保存に微量の無負荷電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。ライカM9を長期間使用しない場合は、ライカM9からバッテリーを取り出してください。
- バッテリーを取り出して保管する場合は、満充電あるいはそれに近い状態ではなく、充電容量を50％前後の状態で保管してください（バッテリー容量は液晶モニター（1.32）に表示されます）。長期間保管する場合は、過放電を防止するために年に2回程度、15分ほどの充電を行ってください。
- バッテリーの接点は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリーなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や接点が破損しなかったかすぐに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、ライカM9が故障するおそれがあります。
- バッテリーには寿命があります。
- 破損したバッテリーは、正しくリサイクルするために、リサイクル協力店にお持ちください。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。

バッテリーチャージャー

- バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から1m以上離れてお使いください。
- 充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- バッテリーが入っていなくても、コンセントに差し込んだままにしておくと、微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- 接点は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。

メモリーカード

- データの読み込み中や書き込み中は、メモリーカードをライカM9から取り出したり、ライカM9の電源を切ったり、ライカM9に振動を与えたりしないでください。
- 記録データを保護するために、付属の帯電防止ケースに入れて保管してください。
- 高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気を発生する場所で保管しないでください。
- 落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- ライカM9を長期間使用しない場合は、ライカM9からメモリーカードを取り出してください。
- メモリーカード裏の端子部には触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- データ消去を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなりますので、定期的に初期化し直すことをおすすめします。

センサー（撮像素子）のクリーニング

センサーのカバーガラスに小さなごみやほこりが付着すると、その大きさにもよりますが、黒い小さな点やマークとなって画像に写り込むことがあります。

センサーをクリーニングする場合は、ライカカスタマーサービス（89ページ）にてクリーニングサービスをご利用いただけます。なお、クリーニングサービスは保証の対象外となり、有料とさせていただきます。

また、ライカM9のメインメニューにある［**センサー検査**］機能を使えば、シャッターが開いたままの状態になり、センサーをご自身でクリーニングしていただくこともできます。

メモ

- ライカM9の内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、ライカM9には常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- プラスチック/ビニール部品は帯電しやすくほこりをひきつけやすくなっています。レンズキャップとボディキャップは、やむを得ず衣類のポケットに入れるときもできるだけ早めに取り出してください。

センサーをクリーニングする

1. メインメニュー（13、30ページ）で［**センサー検査**］（4.1.21）を選びます。
   - サブメニューが表示されます。
2. サブメニューでバッテリー残量が十分であること（60%以上）を確認してから、［はい］を選びます。
   - さらにサブメニューが表示されます。

   メモ

   バッテリー残量が十分でない場合は、注意： バッテリー残量不足 センサークリーニング不能 というメッセージが表示され、クリーニングできないことをお知らせしますので、バッテリーを充電してから行ってください。

3. シャッターレリーズボタン（1.19）を押します。シャッターが開いたままの状態になります。
4. シャッターが開いたらセンサーをクリーニングしてください。クリーニングするときは、次の点にご注意ください。

メモ

- センサーの汚れがひどくならないようにするために、点検・クリーニングはできるだけほこりの少ない場所で行ってください。
- 8～10倍のルーペを使うと効果的に点検・クリーニングを行えます。
- 通常のごみやほこりは、清潔な（必要に応じてイオン化した）空気や窒素を吹き付けて吹き飛ばしてください。先端がブラシ状になっていないブロワー（ゴム製など）をおすすめします。特別な低圧のクリーニング用エアースプレーを使うときは、各スプレーの使用上の注意に従ってください。
- これらの方法で吹き飛ばせないごみやほこりが付着している場合は、ライカカスタマーサービス（89ページ）までご相談ください。

- シャッターが開いた状態のときにバッテリー容量が40%を下回ると、液晶モニターに 注意： バッテリー残量低下　カメラの電源をオフにしてください。 というメッセージが表示されます。また、同時にブザー音が鳴り始め、ライカM9の電源を切るまで鳴り続けます。ライカM9の電源を切るとシャッターも閉まります。シャッターが閉じるときに物が挟まるとシャッターが破損することがありますので、電源を切るときはご注意ください。

重要

- ご自身によるクリーニングで生じた破損については一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- センサーのカバーグラスに付着したごみやほこりは、口で吹き飛ばさないでください。わずかな唾液でもセンサーのカバーグラスに付着してしまうと、取り除くのが非常に困難です。
- 高圧の圧縮空気式クリーナーは使用しないでください。センサーが傷つくおそれがあります。
- 点検・クリーニングの際は、硬い物でセンサーに触れないようにご注意ください。

保管

- ライカM9を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします。
  a. ライカM9の電源を切る（24ページ）
  b. メモリーカードを取り出す（21ページ）
  c. バッテリーを取り出す（34ページ）：約3ヶ月後には設定した日付・時間が失われます（20ページ）
- レンズを装着したライカM9の正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーペと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用によりライカM9の内部が破損しますので、レンズを保護せずにライカM9を強い太陽光に向けたまま放置しないでください。また、レンズカバーを装着して日陰に置いたり、ケースに収納したりして、強い太陽光が当たらないようにしてください。
- 破損やほこりから保護するために、パッドを詰めた密封ケースに保管することをおすすめします。
- 適度に風通しのよい乾いた場所で保管してください。高温・多湿の場所は避けてください。湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- 収納しているケースが湿った場合は、湿気や湿気によって染み出てくるなめし剤によってライカM9やレンズが故障するのを防ぐために、ライカM9やレンズをケースから取り出してください。
- 高温・多湿の熱帯地域で使用する場合は、カビなどが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなどに保管する場合は、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。
- カビや細菌が発生するのを防ぐために、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。
- ライカM9とレンズのシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して保管してください。ライカM9のシリアルナンバーはホットシューに刻印されています。

トラブルシューティング

1. 電源が入らない

1.1 バッテリーを正しく入れましたか？

1.2 バッテリーを十分に充電しましたか？
十分に充電したバッテリーを入れてください。

1.3 底蓋を正しく取り付けましたか？

2. 電源を入れてもすぐに切れてしまう

2.1 バッテリーを十分に充電しましたか？
バッテリーを充電するか、十分に充電したバッテリーを入れてください。

2.2 結露が生じていませんか？
寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、結露が生じることがあります。水滴が消えるまでライカM9をそのままにしてください。

3. シャッターが切れない

3.1 画像データをメモリーカードに転送中で、バッファメモリーがいっぱいです。

3.2 メモリーカードの空き容量がなく、バッファメモリーがいっぱいです。
不要な画像を消去してから撮影してください。

3.3 メモリーカードが入っておらず、バッファメモリーがいっぱいです。

4. 画像を記録できない

4.1 メモリーカードを入れましたか？

4.2 メモリーカードの空き容量がありません。
不要な画像を消去してから撮影してください。

5. 液晶モニターが暗すぎる、または明るすぎる

5.1 液晶モニターを真横に近い角度から見ると、表示が見にくくなります。
真正面から見ても明るすぎたり暗すぎたりする場合は、液晶モニターの明るさを調整してください[1]。

6. 撮影直後の画像が表示されない

6.1 オートレビューモードが［なし］に設定されていませんか[2]？

7. 画像を表示できない

7.1 メモリーカードを入れましたか？

7.2 メモリーカードに画像が何も記録されていません。

8. パソコンに接続しても画像を取り込めない

8.1 ライカM9とパソコンが正しく接続されているか確認してください。

9. 日付・時間が正しく表示されない、またはまったく表示されない

9.1 ライカM9を長期間使用していなかったときで、特にバッテリーを取り出したままだった場合は、正しく表示されなかったり、設定が失われたりします。
1. 十分に充電したバッテリーを入れてください。
2. 日付と時間を設定し直してください。

[1] スナップショットプロファイルでは調整できません。
[2] スナップショットプロファイルではオートレビューモードが［5秒］に固定されます。

テクニカルデータ

型式　デジタルレンジファインダーカメラ

レンズマウント　ライカMバヨネットマウント方式　6ビットコード検知センサー付き

使用レンズ　焦点距離16mm～135mmのライカMレンズ

撮像素子　CCD撮像素子　5270 x 3516（1850万画素）、アクティブエリア約23.9 x 35.8mm 5212 x 3472画素（1800万画素）（アナログMシリーズカメラのフォーマットと同等)

画像解像度　DNG™：5212 x 3472（1800万画素）、JPEG：5212 x 3472（1800万画素）、3840 x 2592（1000万画素）、2592 x 1728（450万画素）、1728 x 1152（200万画素）、1280 x 846（100万画素）。

記録形式　DNG™（RAWデータ）、「圧縮なし」または「圧縮あり」を選択（色の深みを非線形的に低下させることで）、2種のJPEG圧縮

ファイルサイズ　圧縮18MB、圧縮なし36MB、JPEG：約2 –10MB

色空間　Adobe® RGB、sRGB

ホワイトバランス　自動、マニュアル設定、プリセット(7種類)、色温度設定可能

記録媒体　SDメモリーカード（2GBまで）、SDHCメモリーカード（32GBまで）

メニュー言語　ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、ロシア語

対応OS　Microsoft ®： Windows® XP、Windows® Vista ® Apple® Macintosh®：Mac® OS X（10.5）

測光方式　実絞りによるTTL中央部重点測光　SCA-3502標準フラッシュユニットと互換性のあるフラッシュシステム用中央部M-TTLフラッシュ測光

測光方法　シャッター先幕のホワイトブレードに反射した光を測光

測光範囲　常温常湿でISO 160のとき、EV 0～20、f1で1.2秒、f32で$^{1}/_{1000}$秒に相当、輝度が低い場合はファインダー内の左側の三角のLEDが点滅

測光素子（連続光測光）　本体下部中央に配置された集光レンズ付きシリコンフォトダイオード

ISO感度　ISO80から2500まで$^{1}/_{3}$の段階ごとに調節可能、絞り優先AEモードおよびマニュアルモード：マニュアル設定または自動、スナップショットモード：自動

露出モード　スナップショットプロファイル：マニュアル設定した絞り値に応じてシャッタースピードを自動設定、適正露出/露出オーバー警告/カメラブレ警告をファインダーに表示　絞り優先AEモード：マニュアル設定した絞り値に応じてシャッタースピードを自動設定、シャッタースピードをファインダー内に表示　マニュアルモード：絞り値とシャッタースピードをマニュアル設定、ファインダー内のLED表示を参照して露出調整が可能

フラッシュ制御

フラッシュユニットの接続　中央制御コンタクトを備えたアクセサリーシューによるフラッシュ発光タイミング先幕シンクロと後幕シンクロの選択が可能

フラッシュ同期速度　$^1/_{180}$秒（⚡）、これより遅いシャッタースピードでのフラッシュ撮影も可能

フラッシュ測光　撮影直前にプリ発光を行うM-TTL調光（ライカSF 24D/ライカSF 58またはSCA-3000の条件を満たすフラッシュユニットとSCA-3501/3502アダプター使用時）

フラッシュ測光素子（Flash measurement cell）　本体下部にある2つのシリコンフォトダイオードと集光レンズ

フラッシュ露出補正　SCA-3501/3502アダプター使用時：±3 $^1/_3$EVの範囲内で$^1/_3$EVステップ、ライカSF24D使用時：±3EVの範囲内で$^1/_3$EVステップ　ライカSF 58使用時：すべてのモードで±3EVの範囲内で$^1/_3$EVステップ

ファインダー表示　フラッシュユニットの充電完了：フラッシュマークのLEDが点灯　適正露出で撮影が完了：フラッシュマークのLEDが引き続き点灯または速く点滅　露出アンダーで撮影が完了：フラッシュマークのLEDが消灯

ファインダー

ファインダー形式　大型ブライトフレームファインダー　パララックス自動補正機能付き

アイピース　視度：-0.5 dpt. 視度補正レンズ（-3～+3 dpt.）を装着可能

フレーミング　2フレーム1組（35mm用と135mm用、28mm用と90mm用、50mm用と75mm用）で表示されるブライトフレームを使用　レンズ装着時に自動セット。フレームセレクターを使って任意のブライトフレームのペアを選択することも可能。

パララックス補正　ファインダーの視野とレンズにおける上下および左右の差異をピント調整に応じて自動補正、ブライトフレームの範囲と撮影範囲が自動的に一致

ブライトフレームと撮影範囲　撮影距離が1mの場合にセンサー（23.9 x 35.8mm）で撮影される範囲を表示。無限遠では、使用レンズの焦点距離に応じて、ブライトフレームの表示よりも約7.3%（28mmレンズ）～18%（135mmレンズ）広い範囲を撮影。撮影距離が1mを下回る場合は、ブライトフレームの表示よりも若干狭い範囲を撮影

ファインダー倍率　0.68倍（すべてのレンズ）

ピント合わせフォーカシング測距枠（ファインダー中央部に明るい領域として表示）を使用　スプリットイメージ式および二重像合致式

有効基線長　47.1mm（基線長69.25mm x ファインダー倍率0.68倍）

表示部

ファインダー（下部のLED表示）　上下にドットがある7セグメント4桁の数字表示LED（周囲の光量に応じて明るさを自動調整）：露出補正値、自動設定されたシャッタースピード（絞り優先AEモード使用時）、AEロック使用表示、シャッタースピードが設定可能範囲外の場合の警告（絞り優先AEモード使用時）、シャッタースピードが2秒より遅い場合のカウントダウン、1つの円とその左右に位置する2つの三角形のLED：露出状況（マニュアルモード使用時）三角形のLEDは、適正露出を得るためにシャッタースピードダイヤルおよびフォーカスリングを回す方向も表示　露出計の測光範囲を超えた場合または測光範囲に満たない場合に点滅フラッシュマークのLED：フラッシュの状態上部LCD モノクロLCD 撮影可能枚数とバッテリー残量（5段階）を表示

液晶モニター　2.5型TFT式カラー液晶モニター　画素数：23万画素　表示については10ページを参照

シャッターとシャッターレリーズ

シャッター　電子制御式縦走りメタルブレード・フォーカルプレーンシャッター　動作音を低減する静音設計

シャッタースピード　絞り優先AEモード：32～$^1/_{4000}$秒（無段階）マニュアルモード：8～$^1/_{4000}$秒（$^1/_2$ステップ）「B」：長時間露出（無制限）セルフタイマーとの併用でTモード（シャッターレリーズボタンを押すとシャッターが開き、再び押すとシャッターが閉まる）を使用可能「⚡」：フラッシュ同調速度（$^1/_{180}$秒）

シャッターチャージ電動式　動作音を低減する静音設計チャージのタイミングを設定可能（シャッターレリーズボタンを押したとき/シャッターレリーズボタンから指を離したとき）

連続撮影　約2コマ/秒で最大8コマ

シャッターレリーズボタン　3段階の作動ポイント：1. 露出計の作動、2. AEロック（絞り優先AEモード使用時）、3. レリーズ、標準ケーブルレリーズ用のねじ穴付き

セルフタイマー　2秒または12秒（スナップショットプロファイルでは12秒のみ）　メインメニューで設定作動中はファインダー窓のLEDが点滅・点灯、液晶モニターに残り時間をカウントダウン表示

本体電源のオン/オフ　本体上面のメインスイッチを使用一定時間が経過した後に自動的にスタンバイモードに移行する「オートパワーオフ」を設定可能（移行までの時間は2分、5分、10分から選択　シャッターレリーズボタンを押すと「オートパワーオフ」状態を解除）

電源　充電式リチウムイオンバッテリー（公称電圧3.7V、容量1900mAh）x1 液晶モニターにバッテリー残量を表示センサーのクリーニング時にシャッターを開いたままの状態でバッテリーが消耗した場合は、ブザー音で警告

バッテリーチャージャー　定格入力：AC100～240V（50/60Hz、自動切換）、DC12/24V 定格出力：DC4.2V、最大800mA

本体

材質　マグネシウム・ダイカストのオールメタルボディ、KTL特殊塗装、合成皮革のカバー。トップカバーおよび底蓋は真鍮製でブラックペイント、またはスチールグレーペイント。

フレームセレクター　任意のブライトフレームの組をマニュアル表示、焦点距離の違うレンズの撮影範囲の確認などに使用

三脚穴　A$^1/_4$（$^1/_4$インチ）、DIN4503に準拠、ステンレス製　底蓋の中央に配置

動作温度　0℃～+40℃

インターフェース　USB 2.0対応の5ピンmini USBポート高速データ送信が可能

寸法　139 x 37 x 80mm（幅x 奥行x高さ）

質量　585g（バッテリー含む）

付属品　バッテリーチャージャー（カーアダプターおよびヨーロッパ仕様とアメリカ仕様の各電源アダプター付き、一部地域により異なる）、充電式リチウムイオンバッテリー、USB接続ケーブル、キャリングストラップ

デザイン、仕様、その他は変更される場合があります。

ライカアカデミー

ライカカメラ社では、高性能な写真関連製品の製造に携わるだけでなく、長年にわたるサービスの一環としてライカアカデミーを主催しています。ライカアカデミーでは、実践的なセミナーやトレーニングコースを開催し、写真や映像分野の専門知識を、初心者から上級者までの熱心な写真愛好家の皆様にご提供します。
専門知識、経験ともに豊かな講師陣が、ソルムスの本社工場や近郊のグート・アルテンベルクにある最新の研修施設にて実施するコース内容には、一般的な写真撮影から専門の対象分野までが含まれます。こちらは、数多くのアドバイスや情報に加えて、皆様の作品作りに対するサポートもご提供しています。ライカアカデミーの最新プログラムについては、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Leica Akademie
Oskar-Barnack-Str. 11
D-35606 Solms
Phone: +49 (0) 6442-208-421
Fax: +49 (0) 6442-208-425
la@leica-camera.com

ライカのホームページ

各種製品、ニュース、イベント、ライカカメラ社の最新情報については、ライカのホームページをご覧ください。

http://www.leica-camera.com
http://www.leica-camera.co.jp

ライカインフォメーションサービス

ライカ製品の使い方などの技術的なご質問は、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Informations Service
Postfach 1180
D-35599 Solms
Phone: +49 (0) 6442-208-111
Fax: +49 (0) 6442-208-339
info@leica-camera.com

ライカデジタルカメラサポートセンター

＜技術的なお問い合わせ窓口＞
Tel. 03-3655-5508
受付時間：
月曜日ー金曜日　9：00-18：00
祝祭日は受け付けておりません。

ライカカスタマーサービス

ライカ製品のメンテナンスや修理が必要な場合には、下記のカスタマーサービスセンター、ライカカメラジャパンカスタマーサービス、またはお近くのライカ正規販売店までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Customer Service
Solmser Gewerbepark 8
D-35606 Solms
Phone: +49 (0) 6442-208-189
Fax: +49 (0) 6442-208-339
customer.service@leica-camera.com

ライカカメラジャパン株式会社
カスタマーサービス
東京都中央区銀座6-4-1 ライカ銀座店内
Tel. 03-6215-7072
Fax 03-6215-7073
Email: info@leica-camera.co.jp

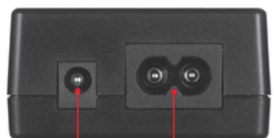
ME95


1.33
1.9


1.36
1.35
1.34


1.37
1.38
1.39


1.41
1.40
80%
CHARGE
1.42
1.42a


1.43
1.44


1.45

各部の名称については表紙と背表紙の内側の写真をご参照ください。

my point of view

ライカカメラジャパン株式会社
東京都千代田区有楽町1-7-1
Tel 03-5221-9501 / Fax 03-5221-9502
info@leica-camera.co.jp
www.leica-camera.co.jp

1007-TS1000

93 311 IX/09/FX/J.